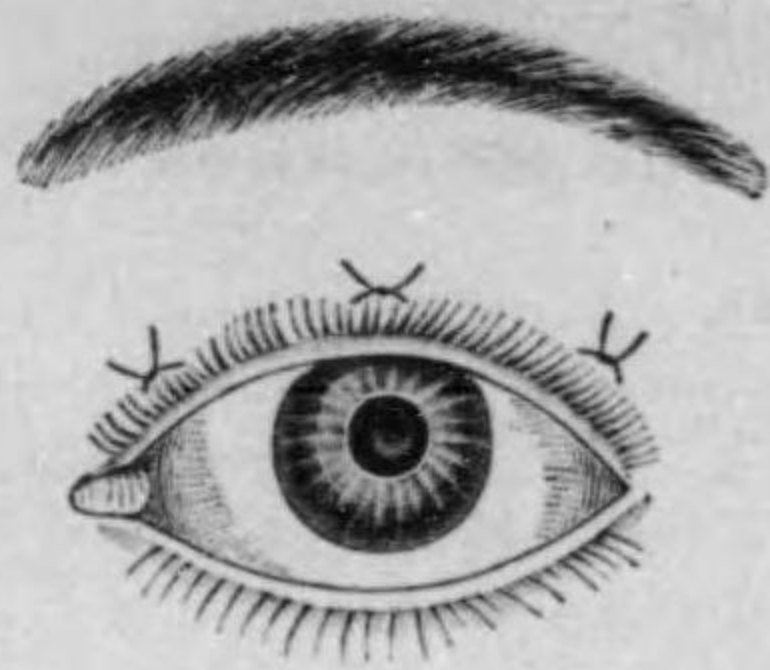
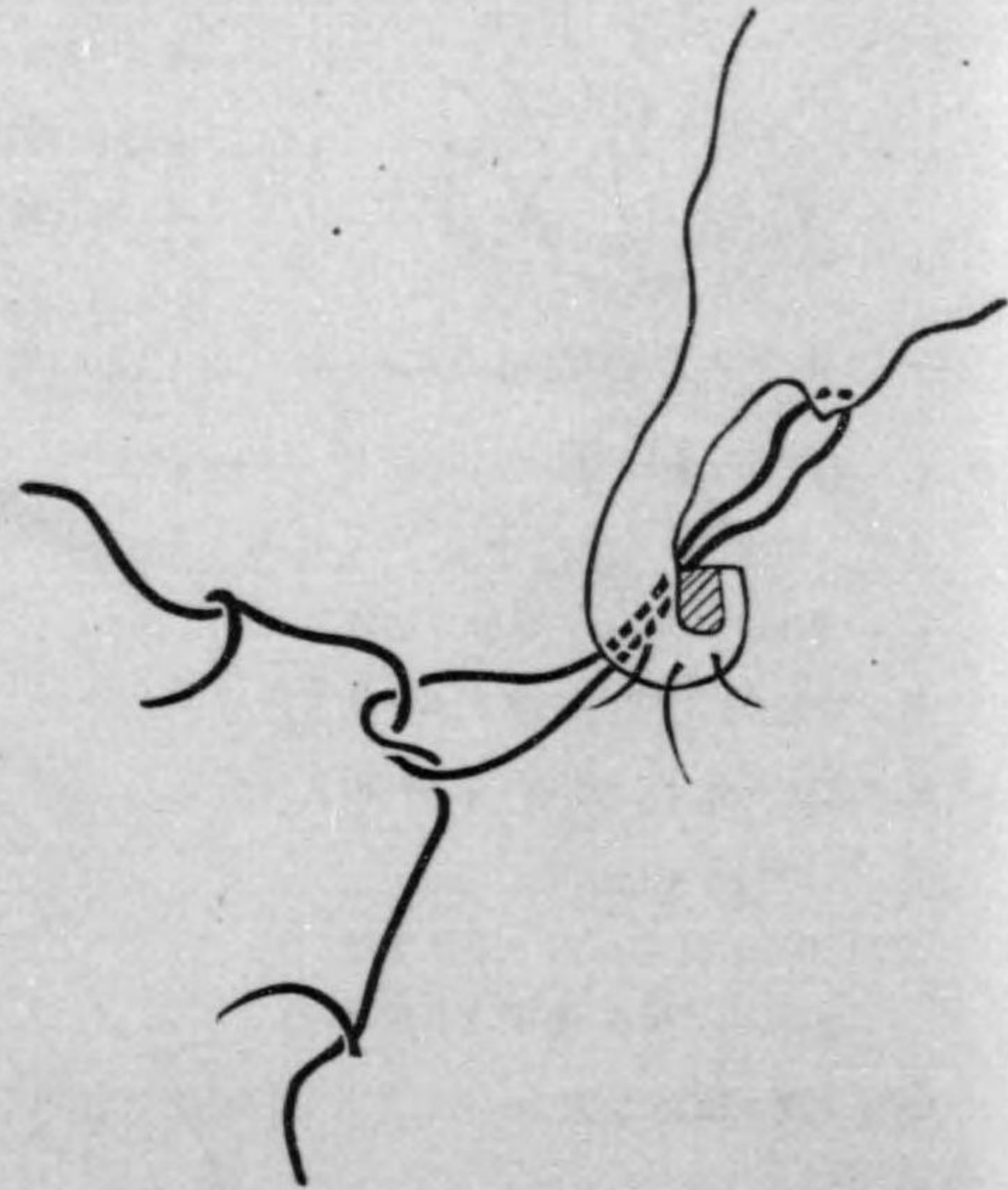


手術的療法ノ内 瀉血法 亂切法 搔爬法 及 燒灼法ハ 炎症 竝ニ 肥厚ノ 著シキ時期ニ 之ヲ用キ 顆粒壓碎法ハ 主トシテ 膠様期顆粒ニ 之ヲ用キ 軟骨切除法ハ 骨ノ肥厚強キ場合 或ハ 軟骨ノ彎曲セル爲メ 内臓症ヲ起シタル場合等ニ 用キラル。



第 145 圖
軟骨切除法第三節

第 146 圖
軟骨切除法略圖



5. 治療各論

1. 初期ノ療法

内務省分類標準中 輕症トラホームノ一ニ 該當スルモノニシテ 若シ 結膜ノ發赤 及 肥厚 強クシテ 分泌稍多キ場合ニハ 0.5-

1% 硝酸銀水 點眼(1日1回) 加之 3% 硼酸水 又ハ 5000 倍青酸々化汞水 冷罨法(1日3-4回 10-20 分間宛)ヲ行フ。炎症輕度ナレバ 0.2-0.4% 硫酸銅水 點眼(1日2-3回 處方26 27) 加之 冷罨法 同前。炎症最輕ケレバ 0.2-0.5% 硫酸亞鉛水 點眼(1日2-3回 處方33 34)。

ロ. 全盛期ノ療法

分類標準中 重症トラホームノ一ニ 該當スルモノニシテ 若シ 結膜ノ發赤 及 肥厚 高度ニシテ 分泌旺盛ナラバ 1-2% 硝酸銀水 點眼(1日1-2回) 加之 5000 倍青酸々化汞水 同% 昇汞水 10000 倍過マンガン酸カリウム水 等ノ冷罨法(1日4-5回 15-30 分間宛)。又 場合ニヨリ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬等)ヲ行フ。

分泌減少スレバ 硫酸銅結晶(1日1回) 加之 冷罨法 同前。或ハ 更ニ 自宅ニ於テ 0.3-0.5% 硫酸銅水(處方26 27) 0.5-2.0% クシロール水(處方63 64) 5-10% クプロチトロール(處方62) 等ヲ 1日2-3回 點眼セシム。場合ニヨリ 硫酸銅結晶 硝酸銀水 結膜按摩法 等ヲ 交互ニ用ウ又 場合ニヨリ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬等)ヲ行フ。

ハ. 癒痕期ノ療法

若シ 膠様顆粒アレバ 之ヲ 器械的ニ 壓碎スルカ 或ハ 結膜按摩法 硫酸銅結晶 等ニテ 漸次吸收セシム。

乳嚙ノ増殖 顆粒 等 尙 存スレバ 硫酸銅(結晶 或ハ 溶液) 結膜按摩 硝酸銀(0.2-1%) 等ヲ 1日1回 行ヒ 尙 自宅ニ於テ 0.2

—0.4%硫酸銅水(處方26) 0.3—0.5%硫酸亞鉛水(處方33 34) 0.5—1%クシロール水(處方63 64) 5—10%クプロチトロール(處方62)等ヲ 1日2—3回 點眼セシメ 且ツ 3%硼酸水 又ハ 5000倍青酸々化汞水 等ノ冷罨法(1日3回 10—20分間宛)ヲ行ハシム。

症狀 一層 輕快シテ殆ンド治癒ニ近ヅケバ 弱キ 收斂劑 即チ前記ノ自宅療法ノミヲ 持續ス。

炎症 消退シテ 癒痕ノミ 貽レバ 治療ヲ休止ス。但シ 全治ニ至ルマデハ 屢々 再發スルコトアルヲ以テ 再發ノ場合ニハ 時期ヲ失セズ 再ビ 治療ヲ 行フヲ要ス。

ニ. 急性トラホームノ療法

急性トラホームノ 疑アルトキハ 必ズ 分泌物ノ 細菌學的検査ヲ 行フベシ。是レトラホームニハ 往々 他ノ結膜炎ノ 合併スルコト アルヲ以テナリ。而シテ 分泌物中 若シ コフホ ウキークス氏桿菌 其ノ他 急性結膜炎ノ 原因トナル菌 アレバ 1—2%硝酸銀水 點眼(1日1—2回) 5000倍青酸々化汞水 冷罨法 等ニテ 通常 數日ノ後 急性炎症去リ 慢性トラホームノ 症狀ヲ 呈スベシ。

又 分泌物中 モラックス アクセンフェルド氏重桿菌 アレバ 0.5—1%硫酸亞鉛水ノ 點眼(1日 5—6回) 及 0.5%硫酸亞鉛水ノ 洗眼ヲ 行ハシムレバ 數日ニシテ 輕快ス。

分泌物中 菌ヲ發見セザレバ 前記ノ 硝酸銀水 點眼 及 冷罨法ヲ 行ハシムベシ。若シ トラホームニ 他ノ結膜炎ノ 加ハリタ

ル者ナレバ 之ニテ 漸次輕快スベシ。若シ 又 眞ノ 急性トラホーム ナレバ 硝酸銀ニテハ 通常 容易ニ 輕快セザル者ナレドモ 1—2箇月間 治療ヲ繼續スレバ 通常 徐々ニ 輕快ス。或ハ 場合ニ依リ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬 等)ヲ 行フモ 可ナリ。

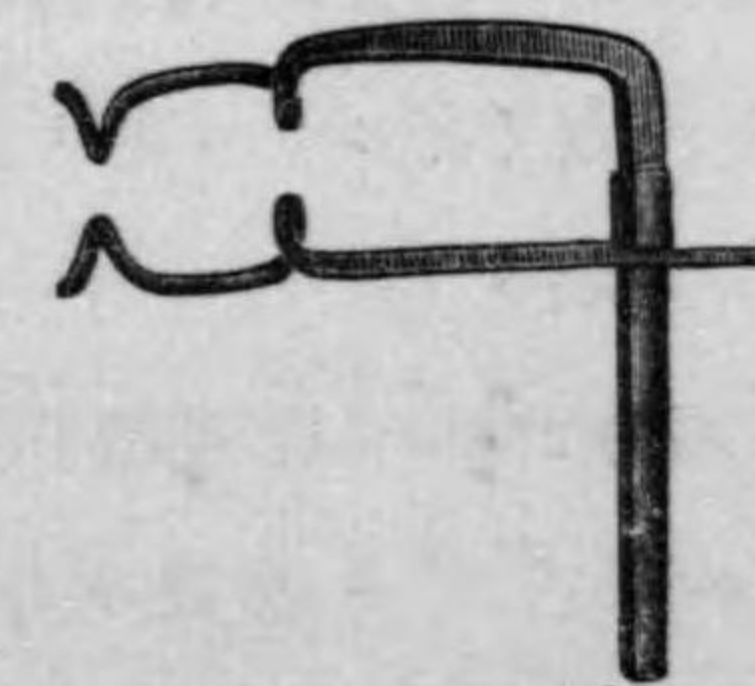
ホ. バンヌスノ療法

トラホーム性バンヌスノ 治療ハ バンヌスト 同程度ノ炎症ガ 結膜ニ 存在スルモノト 見做シテ 結膜ヲ 前記ノ方法ニテ 處置シ バンヌスニ 向ツテハ 通常 温罨法ヲ 行ヘバ 漸次 輕快スルモノトス。例ヘバ 分類標準ノ 重症トラホームノ 二ニ 該當スル如キ 進行中ノ バンヌスアル場合ニハ 上眼瞼ヲ 翻轉シ 瞼結膜ヲ 2%硝酸銀水(1日1—2回)ニテ 十分ニ 腐蝕スルカ 又ハ バクレン 燒灼法 等ヲ施シ 角膜ニ 向ツテハ 温罨法ヲ 行ハシムレバ 通常 バンヌスハ 漸次 輕快スレドモ 尙 病勢ノ 頓挫セザル場合ニハ 上瞼結膜ヲ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬 等)シタル後 開瞼器(第147—149圖)ヲ以テ 瞼裂ヲ開キ 毛筆ニ 10—15%硝酸銀液ヲ 含マシメ 角膜周擁 即チ

第150圖斜線ノ部ニ 塗布シ 後直

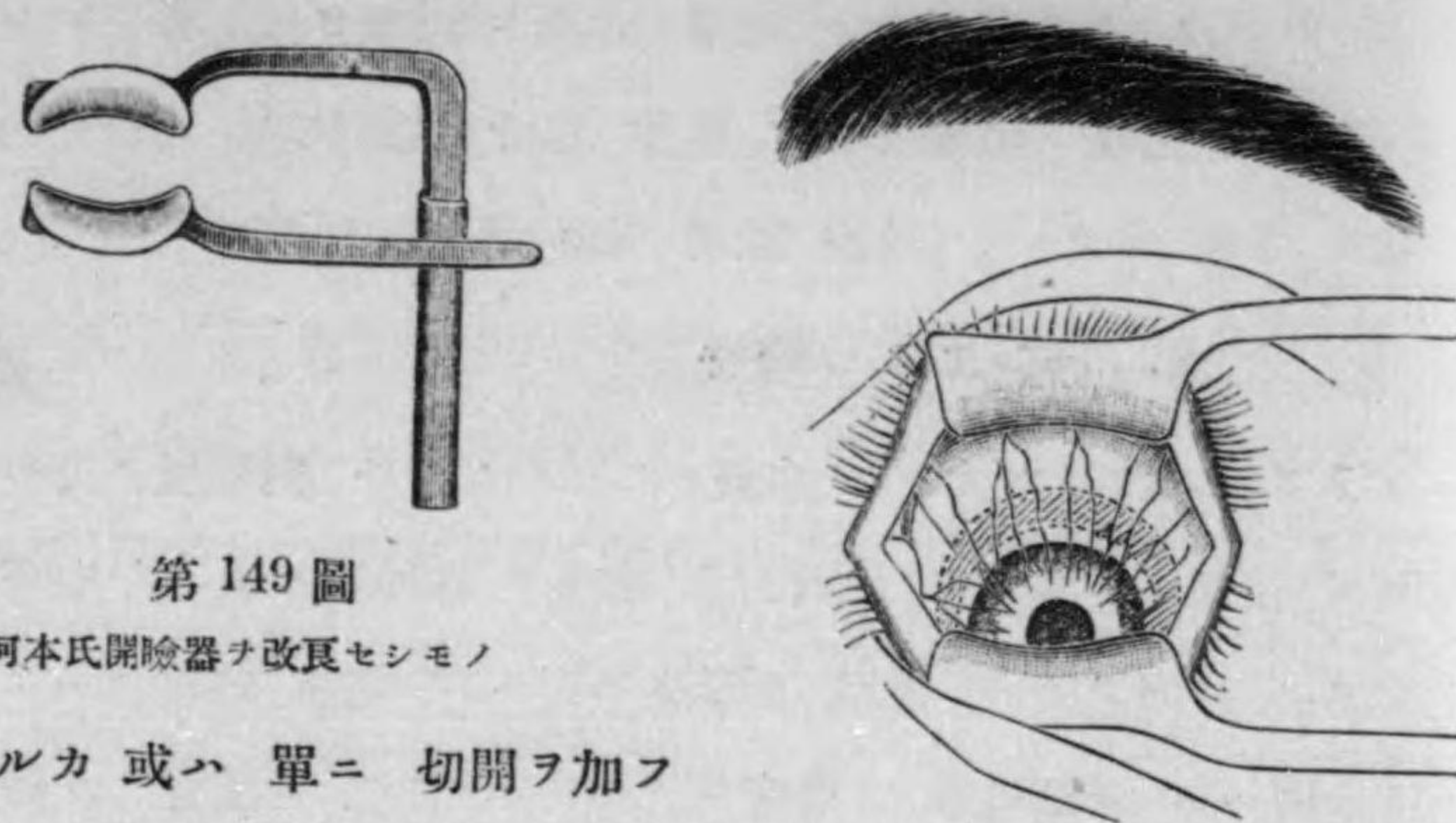


第147圖
デスマル氏開瞼鉤



第148圖
河本氏開瞼器

チニ 1%食鹽水ニテ 洗滌スルカ 或ハ 此ノ部ノ 球結膜ヲ 切除



第 149 圖

河本氏開瞼器ヲ改良セシモノ

スルカ 或ハ 單ニ 切開ヲ加フ
ルカ スレバ 一層 確實ニ 奏効
ス。

第 150 圖

トラホーム性パンノス手術ノ圖

手術後 假縑帶ヲ施シ 後 溫卷法ヲ行ハシム。但シ 之ニテ 疼痛 堪ヘ難ケレバ 一時 冷卷法ヲ 試ムルモ 可ナリ。

ハ. 眼瞼内瞼症 及 睫毛亂生症ノ療法

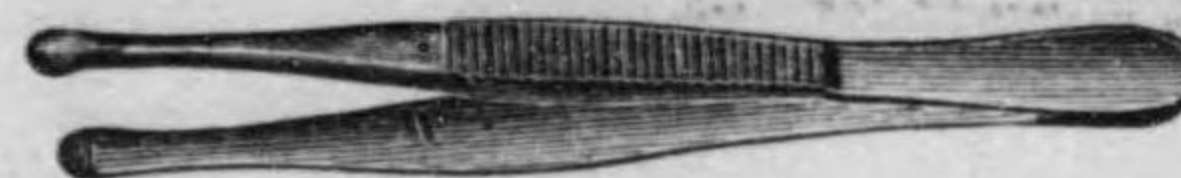
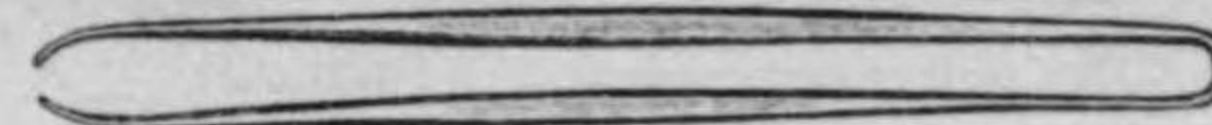
眼瞼内瞼症 及 睫毛亂生症ハ 重症トラホーム ノ末期 或ハ 其
ノ後遺症トシテ來リ 其ノ障碍ハ 睫毛ノ 角膜面ヲ摩擦シテ 炎症
ヲ起シ 視力ヲ害スルニ在リ。故ニ 其ノ療法モ 亦 此ノ害ヲ除ク
ヲ以テ 主眼トス。

最モ簡易ナルハ 睫毛鑷子(第 151 圖 及 第 152 圖)ヲ以テ 角膜
ニ向ヘル睫毛ヲ 一々 抜キ去ルナリ。然レドモ 此ノ方法ハ 患者
ニ 一時的ノ輕快ヲ與フルノミニシテ 極メテ 微細ナル睫毛ヲ 見
落スコト多キト 2-3 週間ノ後 其ノ再生スルトニ由リ 到底 姑

息ノ療法タルヲ 免レズ。

第 151 圖

日本ノ睫毛鑷子

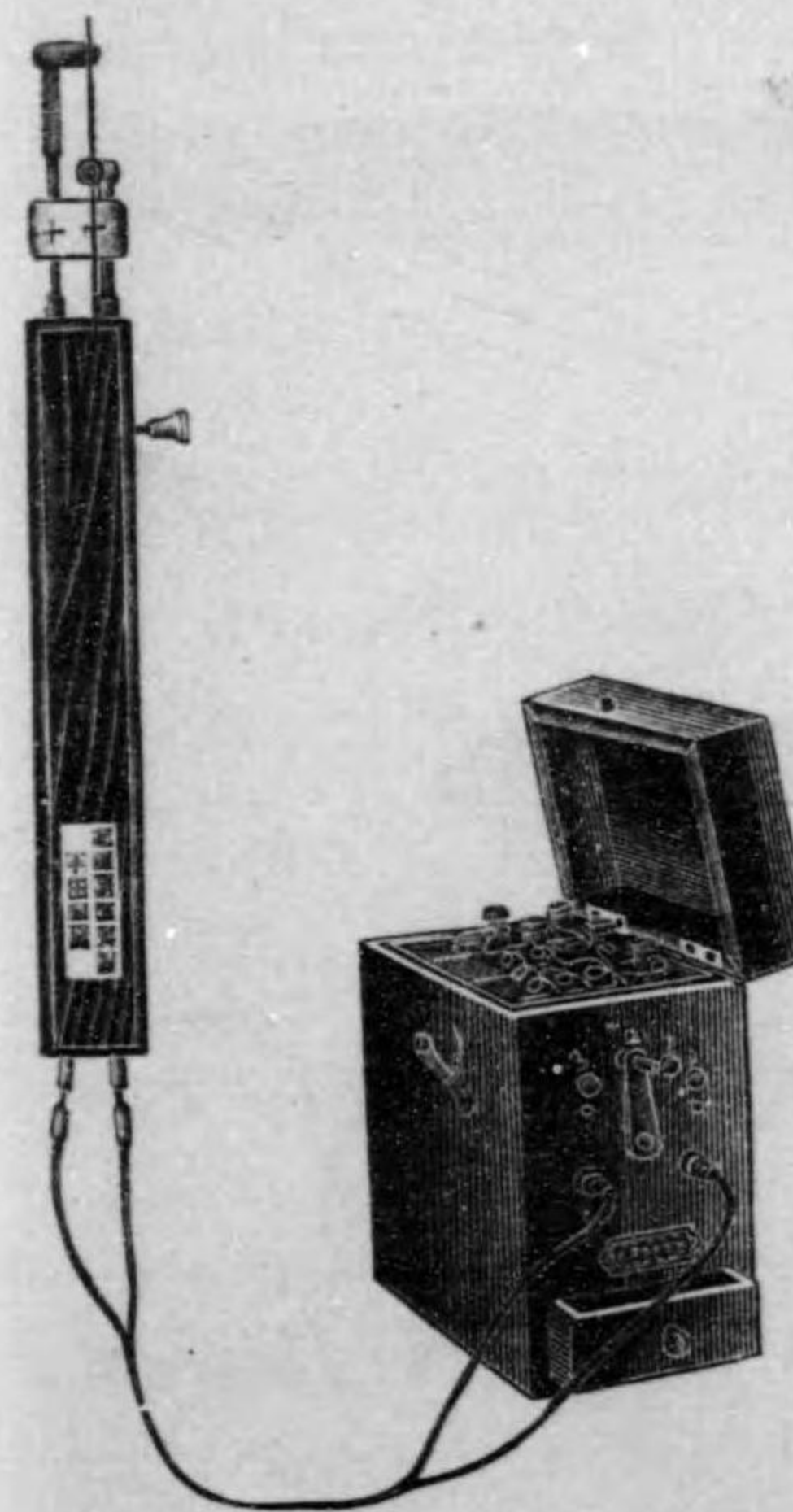


第 152 圖

西洋ノ睫毛鑷子

若シ 少數ノ睫毛ノミ 角膜ニ向ヘル場合ニハ 睫毛電氣分解針

(第153圖)ヲ 睫毛ノ根ニ沿ヒ
テ刺シ 之ニ 弱キ陰極電流ヲ
通ズレバ 針ノ周圍ニ 泡沫ヲ
生ジ 睫毛根ハ破壊セラレ 睫
毛ノ拔去 容易ニシテ 再生セ
ズ。然レドモ多クノ場合ニハ
亂生睫毛 多ク且ツ極メテ細
小ナルモノアリテ 到底 此ノ
方法ヲ以テ 十分ノ奏効ヲ 見
ルヲ能ハズ。故ニ 通常 手術
的療法ニ 依ラザルベカラズ。



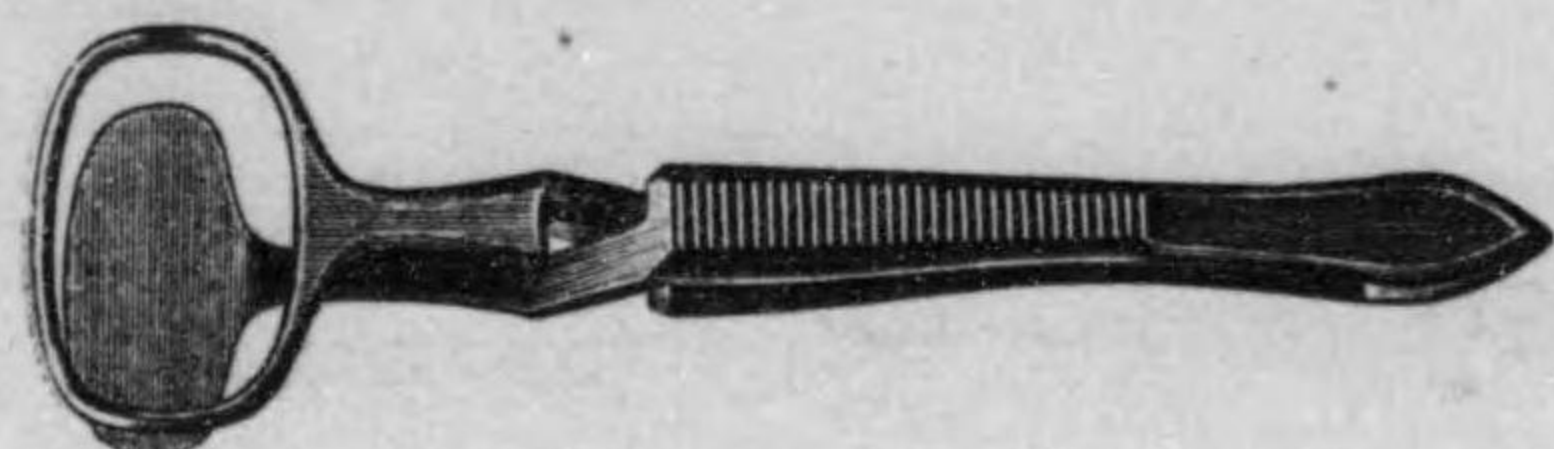
第 153 圖

高村氏睫毛電氣分解針

手術中 最モ多ク用キラル
ルハ ホツツ Hotz 氏式ナリ。
其ノ法 次ノ如シ。

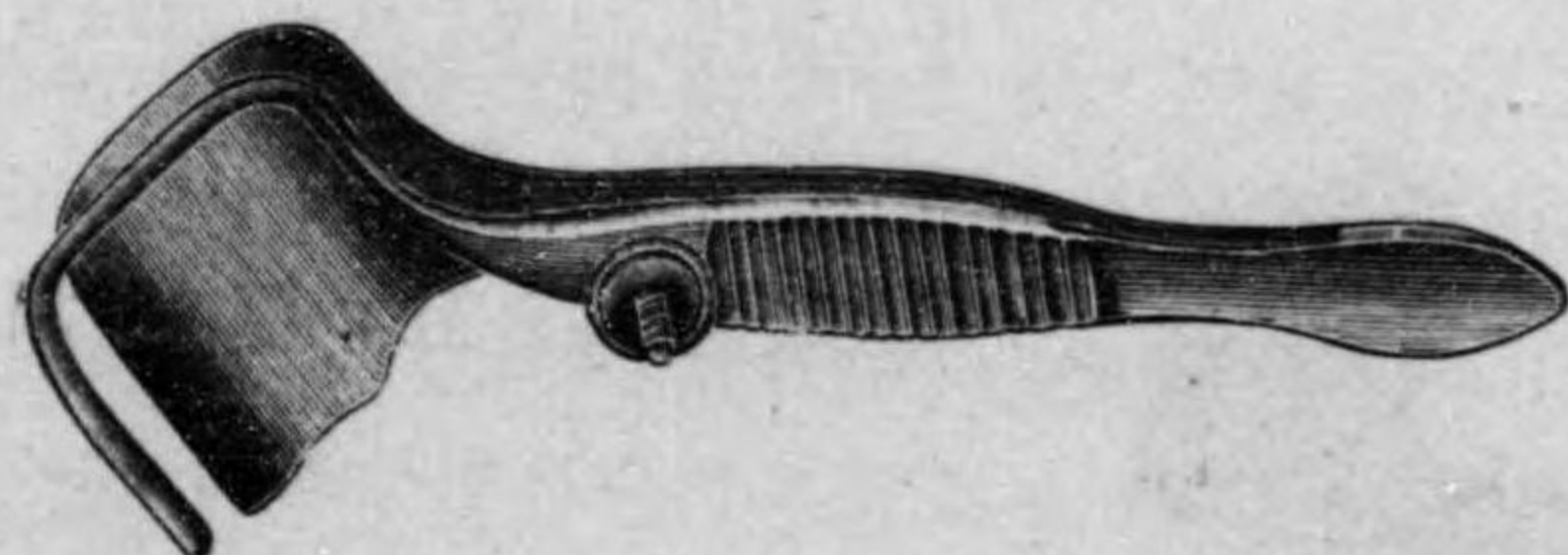
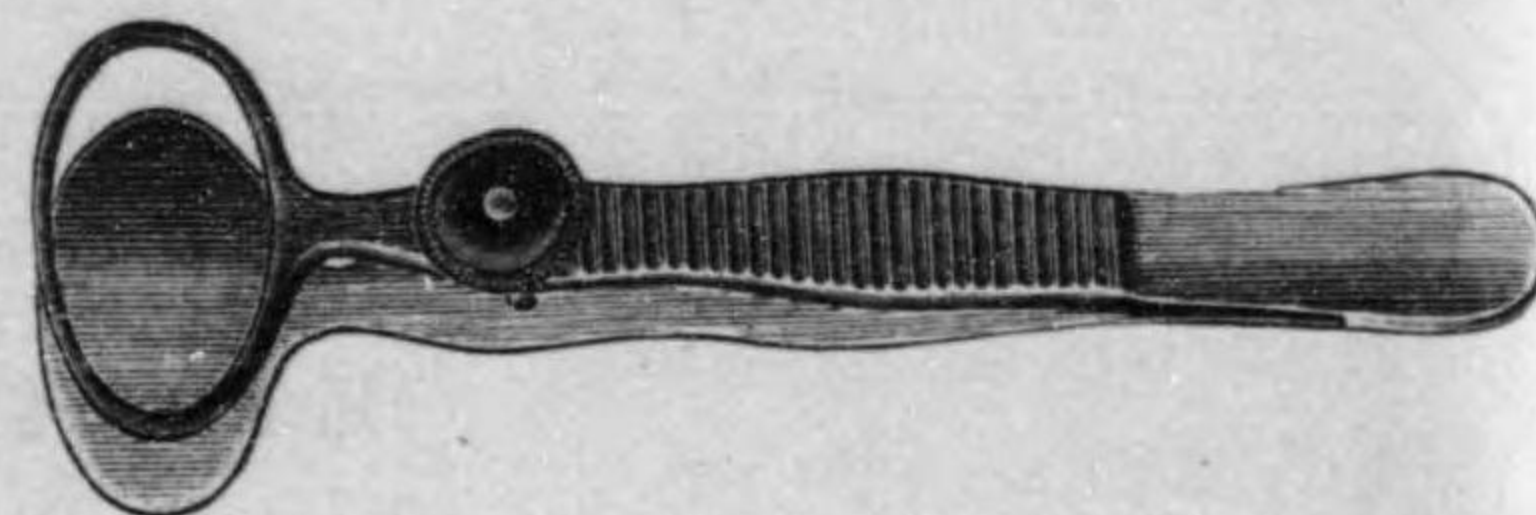
所要器械

注射器 夾瞼器(第154-156圖) 圓双刀 有鉤鑷子 反袞 絲5本(一端=針ヲ附ス) 持針器



第154圖
クラント氏
夾瞼器

第155圖
デスマル氏
夾瞼器



第156圖
スネルレン氏
夾瞼器

準備

5000倍昇汞水 又ハ 3000倍青酸々化汞水ニテ洗眼シ 眼瞼皮膚ニ 沃丁ヲ塗布シ 眼瞼ノ皮下ニ 1%コカイン水(處方 76 78) 又ハ 1-2%ノウオカイン水(處方 56)約1筒ヲ注射ス。

術式

夾瞼器ニテ 眼瞼ヲ夾ミ(第157圖) 眼瞼縁ヨリ 2-3耗ヲ隔テ、瞼縁ニ平行ノ皮

切ヲ加フ。此ノ際 軟骨ニ達スルマテ深く切り 軟骨ヲ切ラザル如クス。次ニ 此ノ切

開線ノ兩端ヨリ 概ネ軟骨上

縁(下眼瞼ナラバ下縁)ニ 一致

シテ 前ト同様ノ要領ニテ 皮

切ヲ加ヘ 鑷子ト 鉄トニテ 其

中間ノ皮膚ヲ 輪匝筋ト共ニ

除去シテ 紡錘形ノ創ヲ作り

針ヲ瞼縁ニ 近キ創縁ニ貫キ 更

ニ軟骨上縁(下眼瞼ナラバ下

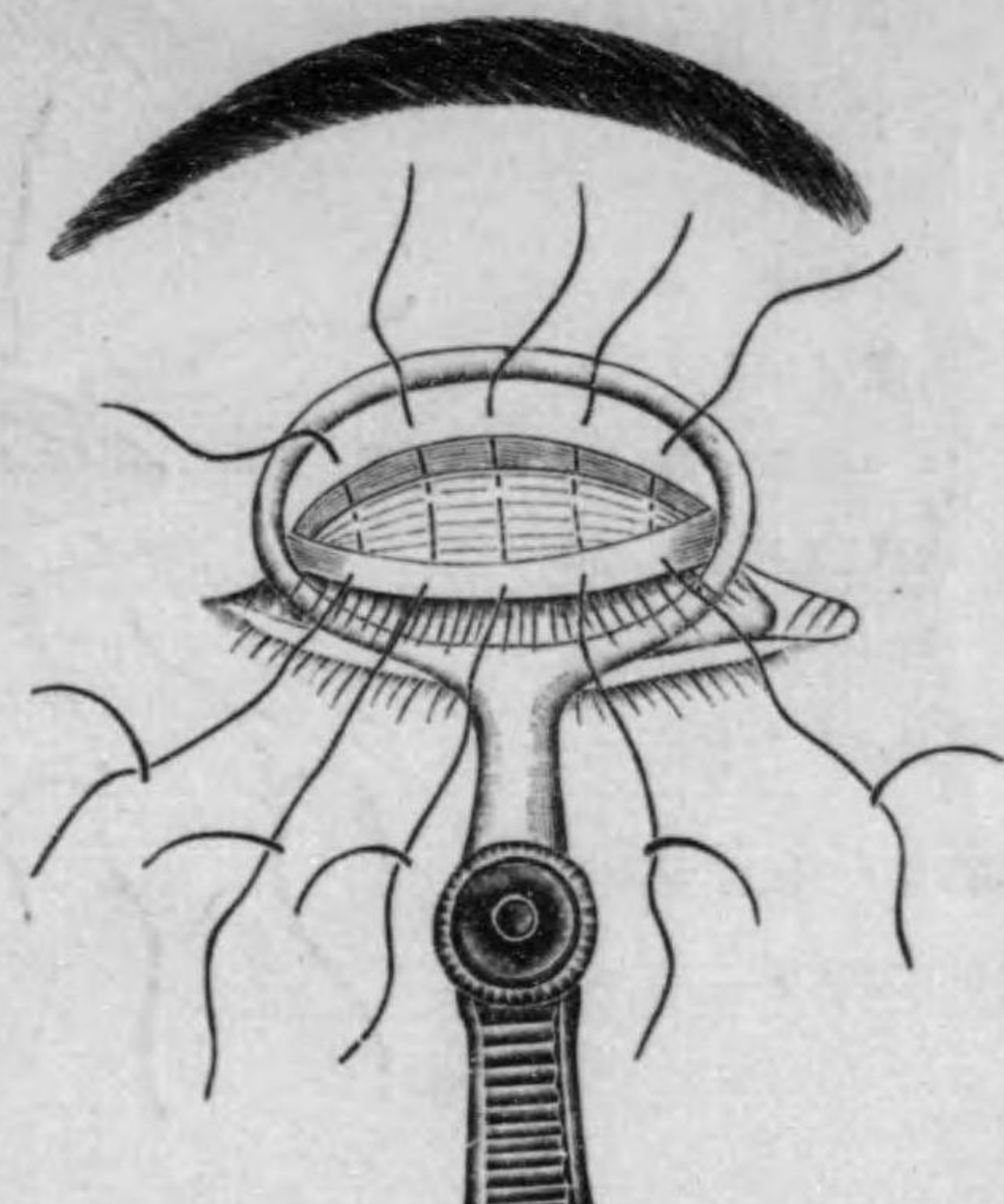
縁)ノ 強靱ナル組織ニ 貫キ 之

ヲ軟骨上縁(下縁)ノ創縁ニ出

シ(第158圖) 之ト 同様ナル操

作ヲ 4-5 箇所ニ行ヒ(第157

圖) 絲ヲ結紮ス。



第157圖 ホツツ氏手術

後處置

術後 夾瞼器ヲ去リ 縫合線ニ

沃丁ヲ 塗布シ 縛帶ス。毎日縛帶ヲ交換シ 約4日ノ後 抜絲シ 後 5000倍青酸々化

汞水ノ 溫罨法ヲ行ハシム。

注意

皮切ヲ加フルニ方リ 成ルベク

皮膚ヲ多ク切除セザルコト 卽

チ 創ノ形狀ヲ 口廣ク 底狭ク

ナラザル如ク スベシ(第158

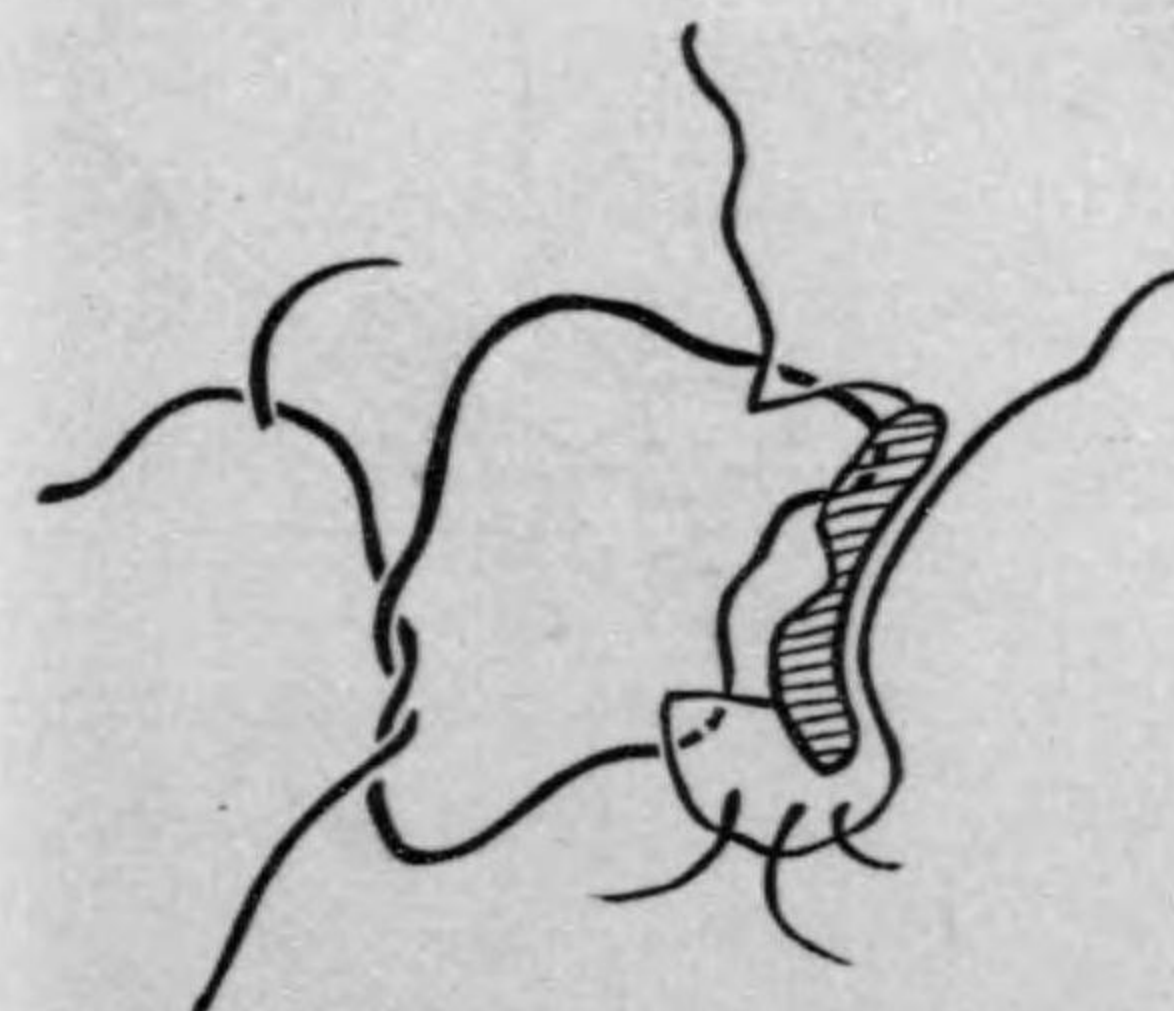
圖参照)。

夾瞼器ノ 小形ニ過アルハ 皮

切 短カクナリテ 不可ナリ。

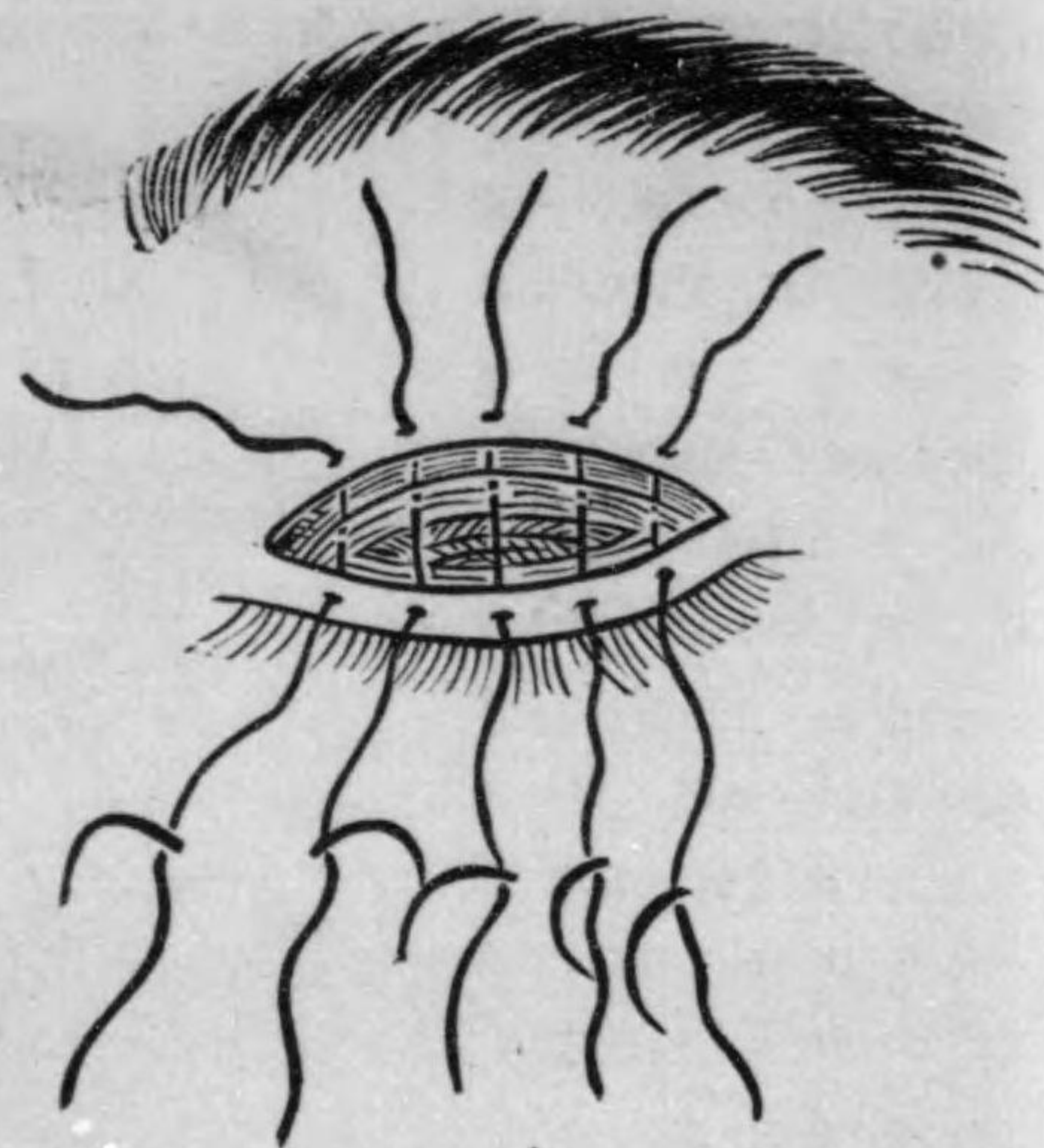
軟骨ノ彎曲 強キトキハ 縫合

ニ先チ 軟骨前面ノ中央部ヲ

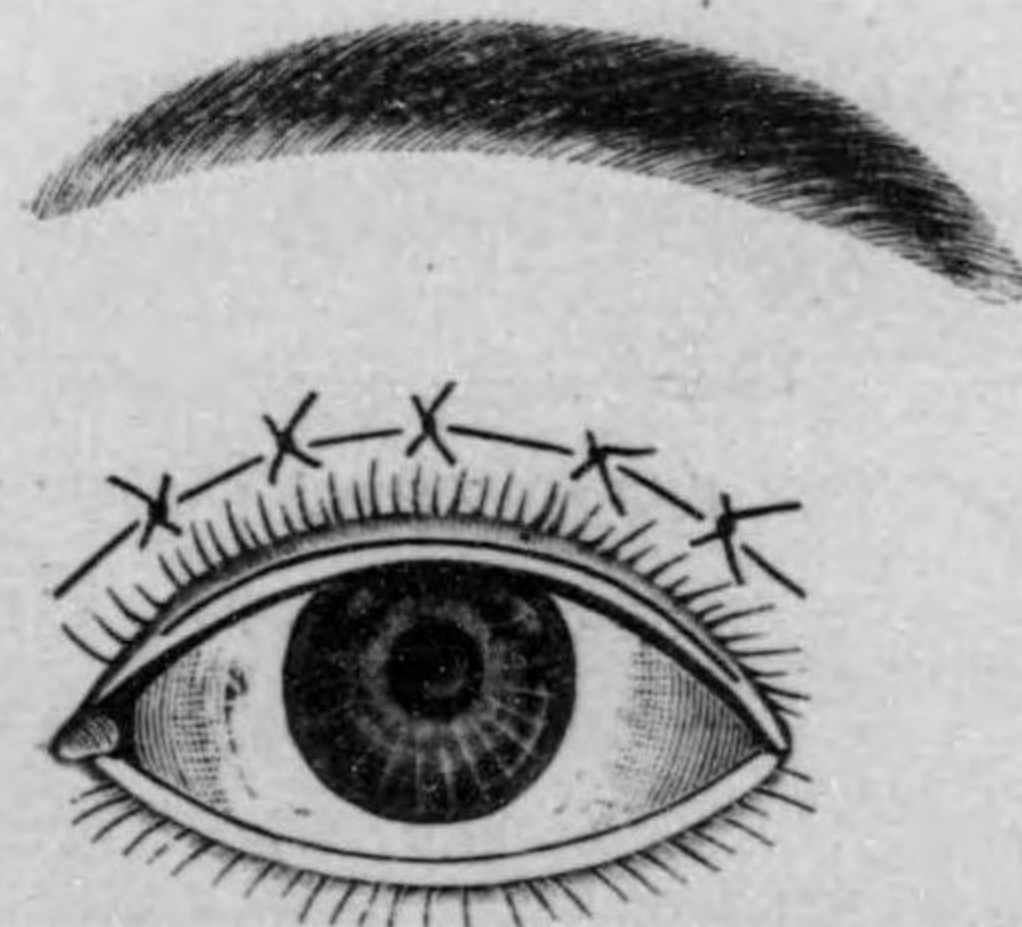


第158圖
ホツツ氏手術式略圖

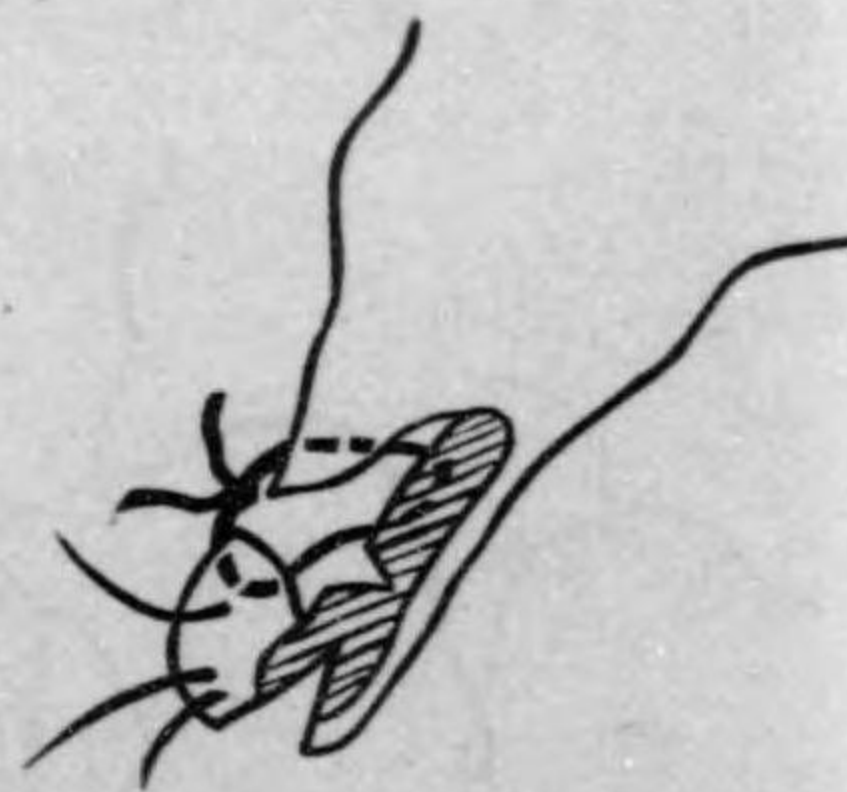
横=細長ク楔状
 =削り取ルヲ可ト
 ス(第158圖 第159
 圖)。尙之=加フル
 = 險縁= 横=
 線状ノ切開ヲ加フ
 レバ効果一層大
 ナリ(第160圖 第
 161圖)。
 又本症ノ手術ニ
 前述ノ軟骨切除
 法ヲ行フコトヲ
 得。



第159圖 ホツツ氏手術變法ノ一



第160圖
ホツツ氏手術變法ノ二



第161圖
同略圖

ト. 險裂縮小症ノ療法

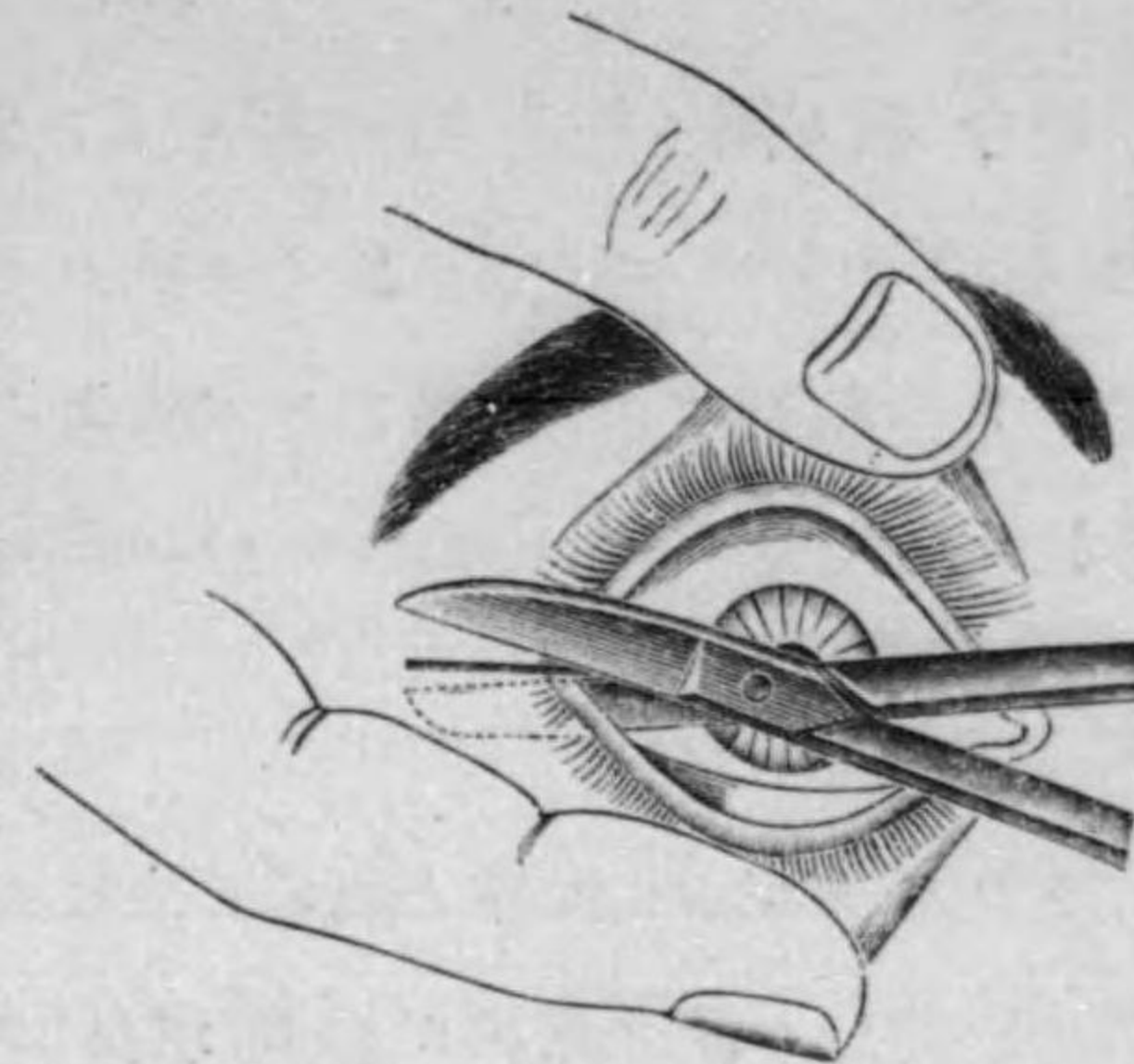
此ノ手術ハ 外眥ヲ 切り廣グルナリ(外眥成形術)。

所要器械

注射器 直鉗 有鉤鑷子 角板 絲
 3本(一端=針ヲ附ス) 持針器。

準備

5000 倍昇汞水 又ハ 3000 倍青酸
 マ化汞水ニテ 洗眼シ 2%コカ
 イン水1滴ヲ 點眼シ 外眥部ノ皮
 膚ニ 沃丁ヲ塗布シ 此ノ部ニ
 コカイン水(處方 76 78) 又ハ ノウ
 オカイン水(處方 56) 約1筒注
 射ス。



第162圖
外眥成形術第一節

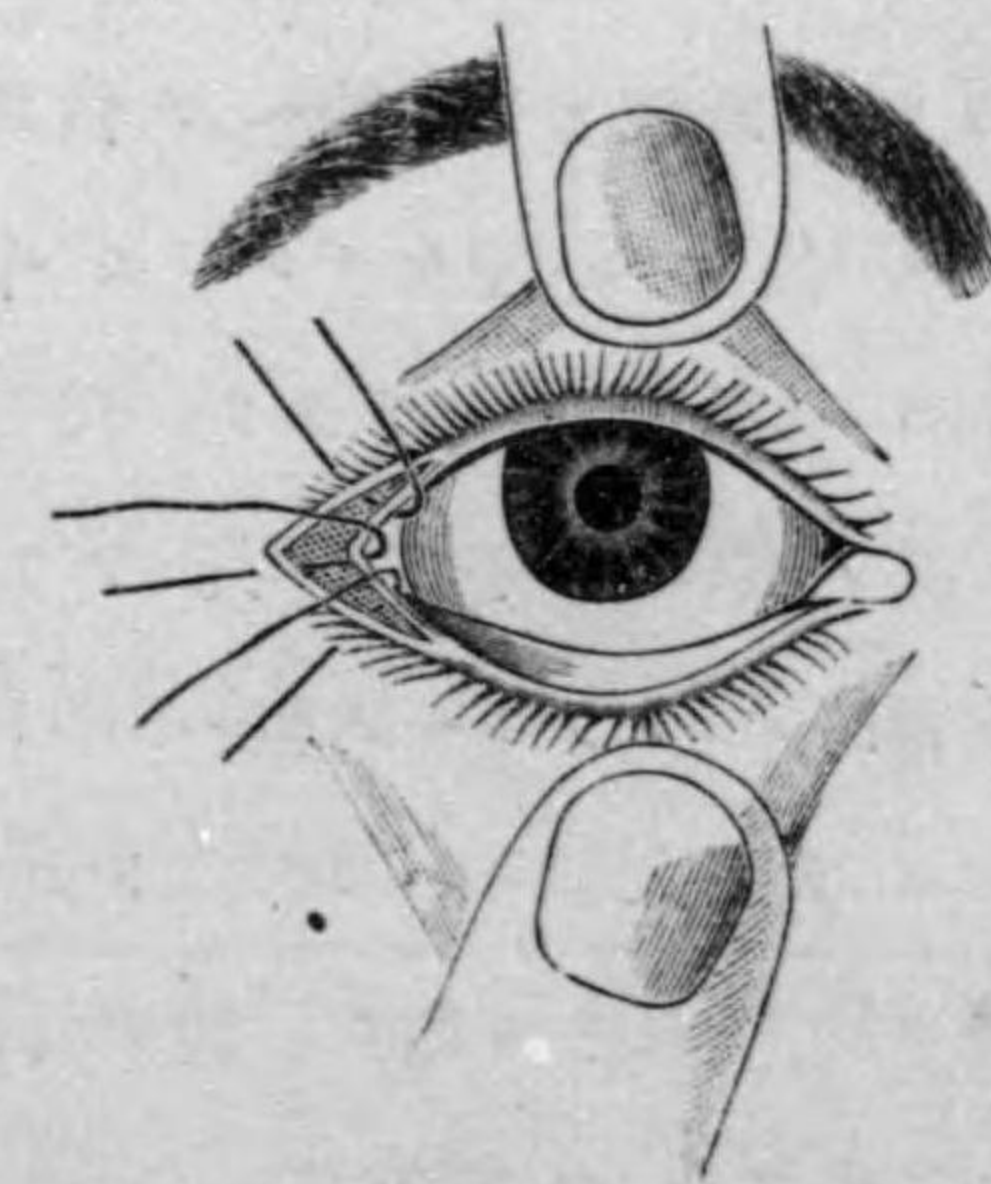
術式

直鉗ヲ以テ 外眥ヲ 第162圖ノ
 如ク 横ニ 切り擴ゲ 之ヲ第163
 圖ノ如ク 縫合ス。

縫合ノ際 出血多クシテ 施術稍、
 困難ナルヲ以テ 角板ヲ以テ 創面
 ナ壓シツ、縫合スルヲ 可トス。

後處置

ホツツ氏式ニ於テ 述ベタル所ニ 等
 シ。



第163圖
外眥成形術第二節

第十三章 トラホームノ由來

現今我が國ニ於テ行ハル、「トラホーム」ナル語ハ元來獨逸語 Trachom ニシテ其ノ語源ハ希臘語ノ τραχύς (粗糙)ヨリ起レリ。結膜面ノ粗糙ナルガ故ナリ。又顆粒ノ出來ル所ヨリ顆粒性結膜炎 Conjunctivitis granulosa トモ云フ。漢法ニテハ險生風粟ト稱ス。

トラホームハ世界ノ殆ンド全般ニ擴ガリ殊ニ多キハ附圖第二及第三ニ於テ見ルガ如ク埃及アラビヤ及支那地方ニシテ歐米ノ文明國ニハ極メテ少ナシ。

「トラホームは未開の標識なり」。

而シテ歐米ノ文明國ト雖モ昔シハ矢張りトラホームノ多カリシ時代アリ。例ヘバ白耳義ノ陸軍ニハ現今ハトラホームハ0.1%ニモ達セザレドモ今ヨリ約80年前即チ西曆1840年ニハ20%モアリタリ。又丁抹國コペンハーゲンノ軍隊ニモ其ノ頃(1848年)18.8%アリタリト云フ。我が國ニ於テモ徵兵検査時ノトラホーム數ハ年ト共ニ減少シテ大正元年24%ナリシニ大正九年ニハ13%トナレリ。其ノ遞減ノ狀況ハ99頁ノ表ニ於テ見ルガ如シ。即チ世ガ開ケ人々ノ知識ガ進ムニ從ヒトラホームハ減少ス。

學校ニ於ケルトラホーム數(%)ハ文部省ノ統計ニ據ルニ次ノ如シ。

學校別	大正元年	二年	三年	四年	五年	六年
小學校(男)	16.7	17.2	17.1	16.1	15.9	15.9
小學校(女)	17.6	18.7	18.7	17.8	18.3	17.4
中學校	9.1	9.4	8.5	7.7	7.2	6.6
高等女學校	7.0	10.1	10.0	9.2	7.4	7.5
師範學校(男)	5.5	7.5	6.0	6.0	5.6	5.4
師範學校(女)	6.1	6.9	5.8	5.4	5.2	5.2

トラホームノ多寡ハ又概ネ國民ノ富ノ程度ニ比例ス。即チ世界各國ノ富力ト其ノトラホーム數トヲ比較スルニ多クハ

「貧しき國はトラホームに富む」

ト云フ結果ヲ得。又我が國ニ於テモ本病ハ下層社會乃至貧民ノ家庭ニ多キコトハ學習院生徒ニ本病ノ少ナキコト(1%以下)ニ由リテモ知ラル。

我が國ニ於ケルトラホーム分布ノ狀ハ次ニ掲グル所ノ徵兵時ノ患者數及附圖第一ニ由リテ見得ルガ如ク東北及九州地方ニ最モ多ク東京以西京都ニ至ル地區ニ最モ少ナシ。

徵兵トラホーム患者府縣別表(%)

府縣名	大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
北海道	17.7	20.3	19.1	17.4	20.7	24.5	21.3	21.9	20.8
青森	47.0	51.9	50.2	50.0	43.0	40.4	38.8	38.4	30.0
岩手	30.6	28.7	24.2	24.9	19.8	25.2	28.1	17.9	14.9
秋田	26.3	27.1	30.7	29.4	29.0	22.4	21.4	21.7	18.5

山	形	34.4	35.1	35.8	15.3	9.0	10.2	15.8	18.1	19.3
宮	城	49.2	49.4	46.9	33.7	26.9	19.3	18.3	16.7	19.2
福	島	52.7	36.0	35.2	16.0	14.7	12.1	13.4	17.5	20.6
茨	城	30.2	19.6	15.9	20.9	14.8	15.7	23.3	15.1	11.7
枳	木	34.4	27.9	17.3	39.9	32.2	23.3	19.2	14.8	14.2
群	馬	21.8	22.8	40.5	42.0	27.8	10.5	13.6	12.1	10.1
埼	玉	20.6	19.5	18.3	19.0	15.9	14.5	11.7	8.8	16.2
千	葉	19.2	13.4	15.0	12.4	6.4	12.3	8.2	10.8	10.3
東	京	15.8	12.2	17.2	12.9	8.4	9.0	6.2	5.2	6.4
神	奈川	15.9	13.0	17.1	16.5	10.6	8.1	16.2	13.2	4.2
新	潟	19.5	14.1	14.1	15.2	17.7	9.3	7.3	9.5	9.7
富	山	9.4	7.2	14.4	9.6	12.8	9.0	6.0	8.1	11.9
石	川	12.0	9.5	14.8	12.2	9.1	10.6	11.2	11.7	14.4
福	井	17.5	15.1	13.4	11.3	9.5	8.0	12.9	10.7	12.7
長	野	12.2	11.1	9.0	8.3	5.3	8.6	5.7	6.0	6.1
岐	阜	11.2	11.5	11.5	9.2	11.4	13.8	15.5	10.3	11.7
滋	賀	12.9	12.0	4.7	5.4	5.8	5.7	3.8	5.9	9.0
山	梨	10.3	8.6	13.4	17.6	11.0	9.3	18.5	18.5	16.0
靜	岡	14.8	9.1	9.3	10.8	9.1	7.6	7.2	5.1	3.5
愛	知	23.5	20.8	19.9	17.7	18.3	19.6	15.9	17.2	18.4
三	重	18.7	18.6	16.1	14.8	15.0	18.3	8.7	11.4	13.9
京	都	25.9	18.0	10.0	8.1	9.8	9.5	8.4	7.9	6.5
兵	庫	30.0	24.3	29.3	19.5	20.8	21.9	16.7	18.4	16.7
大	阪	21.5	22.4	18.3	25.4	23.0	24.8	16.5	20.5	17.5
奈	良	27.0	21.5	16.7	18.1	23.5	22.4	20.3	31.2	21.0
和	山	9.2	11.6	11.3	8.9	12.4	7.8	6.3	7.3	7.7
島	取	14.8	14.5	18.2	17.1	12.1	12.1	13.1	10.6	10.9
島	根	19.8	15.7	13.6	9.5	8.9	12.8	10.8	9.4	8.0
岡	山	24.2	24.9	19.9	19.9	20.1	19.0	19.6	18.7	13.6
廣	島	21.3	22.2	16.2	12.0	13.6	11.6	14.8	13.9	13.3
山	口	14.6	11.7	10.6	14.2	11.1	16.2	15.9	12.8	12.5
德	島	20.4	17.1	23.9	29.8	15.5	14.2	13.5	14.9	9.4
香	川	27.7	22.9	22.5	21.6	22.4	23.6	17.5	17.4	20.4

愛	媛	14.7	14.9	9.3	13.9	12.9	14.9	16.2	16.2	14.1
高	知	11.1	8.7	9.1	5.2	6.5	7.8	12.3	9.3	8.5
大	分	54.7	38.3	35.3	29.7	18.7	21.0	19.5	18.6	18.0
福	岡	39.2	31.1	34.8	30.5	24.0	28.2	29.2	27.7	14.3
佐	賀	38.0	25.1	26.9	24.0	22.5	24.8	19.8	17.1	14.5
長	崎	39.4	13.2	18.3	18.6	19.8	21.6	17.2	15.3	11.4
豊	本	19.6	23.4	23.5	22.7	25.3	24.9	17.5	16.3	11.7
宮	崎	40.3	24.3	28.7	19.3	21.0	17.1	16.5	19.2	15.0
鹿	兒島	25.6	27.1	26.5	11.5	20.3	16.6	17.0	15.6	13.5
沖	繩	17.8	22.6	27.9	32.1	26.8	30.3	21.4	28.8	14.3
朝	鮮	21.4	21.3	11.4	13.1	11.1	12.6	15.5	11.0	10.6
臺	灣	18.8	16.0	8.3	8.2	10.6	9.0	6.9	6.0	6.7
樺	太	8.9	15.5	15.6	17.4	23.9	9.9	25.5	22.5	22.2
關	東州	13.2	10.2	17.4	12.9	13.5	19.2	17.2	10.8	8.9
青	島	—	—	—	—	25.4	20.0	18.9	17.3	8.8
支	那	15.4	26.7	9.3	5.6	7.1	12.0	9.9	7.4	2.6
中	支那	—	—	—	—	—	—	—	7.0	2.4
計		24.0	20.7	20.5	18.6	16.8	16.5	15.3	14.8	13.4

トラホームガ何時頃ヨリ世界ニ存在セシモノナルカハ不明ナルモ歐羅巴ニ於テハ既ニ千七百年前本病ニ關スル記載アリ。然レドモ一般世人ノ注意ヲ引クニ至リシハ彼ノ有名ナルナポレオンノ埃及遠征以來ノコトナリ。

即チ西曆1898年五月ナポレオンボナバルトハ35000ノ軍ヲ率キテ埃及ニ遠征シ連戦連勝セシモ當時埃及ニハ傳染性眼疾流行シ遠征軍ハ之ガ爲ニ著シク悩マサレ傷者ハ傷ヨリモ一層眼疾ノ爲ニ苦シミ特別ノ眼病院ガカイロー外ニ二箇所ニ設ケラレタリト云フ。此ノ眼疾ハ1801年八月佛軍ノ歸還セシ後始メテ下火トナリシモ尙1816年マデハ散發性ニ佛軍中ニ存在セリ。又ナポレオンノ敵タリシ英軍ハ1800年埃及ニ上陸セシ以來佛軍ト同様ニ殆ンド全軍トラホームニ罹リ數箇ノ眼病院建設セラルハ至レリ。1803年同軍ノ歸還セシ際眼病

ハ軍隊ノ到着セシ到ル處ニ傳播シ就中殊ニ烈シク英國ニ流行セリ。其ノ當時ノ眼疾ノ何ナリシカハ明カナラザルモ其ノ大部分ハトラホームナリシコト推測セラル。爾來此ノ眼疾ヲ軍陣眼炎 Ophthalmia militaris 又ハ埃及眼炎 Ophthalmia aegyptiaca ト稱シトラホームノ歴史的異名トセラル。

日本ニモ昔ヨリトラホームハ存在セシナランモ其ノ人々ノ注意スルニ至リタルハ近年ノコトナリ。

第十四章 トラホームノ豫防法

トラホームノ豫防撲滅ハ大別シテ二トス。曰ク

1. 現在患者ヲ治療スルコト
2. 新患者ノ發生ヲ豫防スルコト

是ナリ。

現在トラホームニ罹リ居ル者ヲ治療シ治癒セシメムガ爲ニハ先ヅ患者ヲ発見スルコトニ努メザルベカラズ。即チトラホームノ檢診ヲ普及セシムルコト必要ナリ。

「トラホームの檢診は 轉ばぬ先の 杖と知れ 日本トラホーム豫防協會」

「トラホームの下女を 雇入れて見よ 然らば 日ならずして 汝の子女は 悉く トラホーム患者となるべし」

「輕きトラホームは 見逃すこと多し」

「二つありとて 油斷をするな 眼ほど大事な ものではない 杉山警察醫」

次ニトラホーム患者ヲ発見セバ 其傳染力ノ 強大ナルモノト

否ラザルモノト 速ニ治療ヲ要スルモノト 否ラザルモノトヲ區別シ 傳染力強大ナルモノハ 之ヲ隔離シ 治療ヲ要スルモノニハ 強制的ニ 治療ヲ命ズ。之ガ爲ニハ トラホームノ診療ニ 堪能ナル 醫師ノ養成 及 公設診療機關ノ設置 ヲ要ス。醫師ノ養成ニハ 希望者ヲ募リ 大學 其他ノ醫學校ニ於テ 1-2 箇月間 講習ヲ受ケシムレバ可ナリ。又 診療機關トシテハ 成ルベク 受診者ヲシテ費用ト 時間ト 勞力トヲ 節約シ得ル方法ヲ 講ズルヲ要ス。

匈牙利國ニハ 8箇ノ トラホーム病院ト 42人ノ 政府トラホーム醫アリ。尙 18人ノ 地方醫師ニ トラホーム治療ノ爲 手當ヲ支給シ 便宜ノ場所ニ 診療所ヲ設ケテ 無料ニテ 診療シ 輕症者ハ 1週1回 日曜日毎ニ 又 重症者ハ 1週2-3回ヅ、來ヲシメ 必要ニ應ジ 入院治療セシメラル。此ノ場合ニハ 患者 及 附添人ノ 汽車賃ハ 半減セラル。

「早期に治療すれば トラホームは 容易に治癒す」

「迷信は 却てトラホームを 蔓延せしむ」

次ニ 新患者ノ發生ヲ 豫防スル爲ニハ トラホームニ關スル知識ヲ 普及セシムルコト 最モ 必要ナリ。即チ トラホームノ害 及其傳染性疾患ナルコト 傳染ハ 分泌物ニ依ルコト 及其傳染經路 之ニ對スル 豫防方法 等ヲ 一般ニ知ラシムルコトナリ。

之ガ爲ニハ 印刷物ノ配付 掲示 新聞雜誌ノ利用 衛生講話 展覽會 幻燈 活動寫眞ノ應用 等 種々ナル方法アルベシト雖 概シテ 讀ミタルヨリモ 聞キタル方 了解シ易ク 又 聞キタルヨリモ 見タル方 感覺強ク 且ツ 長ク記憶スルモノナルヲ以テ 實物 模型 標本 圖畫 等ノ供覽ハ 最モ 有効ナル方法ナルベシ。

「トラホーム豫防の最良武器は清潔なり 日本トラホーム豫防協會」

「驚く勿れ 我が國に 一千万のトラホーム患者あり 同上」

「トラホームの蔓延は 文明國民の恥辱なり 同上」

「トラホームの種は 兒童に蒔かれ 後 失明の實を結ぶ 同上」

「トラホームを絶滅せよ 之によつて 吾等は 年々 一億圓の富を得べし」

トラホームノ傳染ハ 患者ノ 眼脂ヨリス。故ニ 患者ノ 使用シタル 手拭 寢具 衣服 洗面器 其ノ他ノ 器具ハ 危險物トシテ 之ニ 觸レザル如クスベシ。又 之等ノ 物品ハ 成ルベク 屢々 消毒スルヲ要ス。既ニ 第四章ニ於テ 述べタルガ如ク トラホームノ 病原體ハ 乾燥 及 熱ニ對シテ 抵抗力 比較的 弱キモノナルヲ以テ 前記ノ 危險物ハ 成ルベク 日光ニ 曝シテ 乾燥セシメ 又 屢々 熱湯ヲ以テ 洗フヲ可トス。

「手拭が 手傳をする トラホーム 小波」

「手拭は 親子の中も 他人なり 小波」

「日光の はいらぬ家に やまひ入る」

吾人ノ手ハ 何時 如何ナル場所ニテ トラホームノ 病毒ニ 觸レタルヤモ 計リ難キヲ以テ 爪ヲ短剪シ 且ツ 屢々 石鹼ヲ以テ 洗フヲ可トス。手ヤ 顔ヲ 屢々 洗フト云フコトガ トラホーム豫防 及 治療上 卓効アルハ 明カナリ。

「トラホームの病毒は 不潔を好む」

手ヲ以テ 眼ニ 觸レザル如クスルコトハ 亦 極メテ 必要ナリ。

手ヲ以テ 眼ヲ 摩擦スレバ トラホーム病毒ガ 眼ニ入ル危險アルノミナラズ 眼ニ 充血 乃至 結膜炎ヲ起シ トラホームノ 感染ヲ 容易ナラシム。又 患者ニ就キテ云ヘバ 眼ニ 觸レザル如ク 注意スルコトハ 病毒ヲシテ 散蔓セシメザルノ 利アリ。

結膜ニ 損傷 又ハ 炎症アレバ トラホームニ 罹リ易キコトハ 前述ベタル如ク 實驗上 明カナル事實ナリ。故ニ 眼ハ 常ニ 健康ナラシメ 若シ 異常アレバ 速ニ 治療ヲ要ス。

「巨萬の富も 一の眼を 購ふこと 能はず」

「花を見るも 眼なり 月を賞するも 眼なり」

「人生 快樂の大半は 失明と共に失はる」

尙 トラホーム豫防上 守ルベキ攝生法 次ノ如シ。

塵埃ノ 眼ニ入ラザル如ク スルコト

空氣ノ 不潔ナル場所ヲ 避クルコト

過度ニ 眼ヲ 使用セザルコト

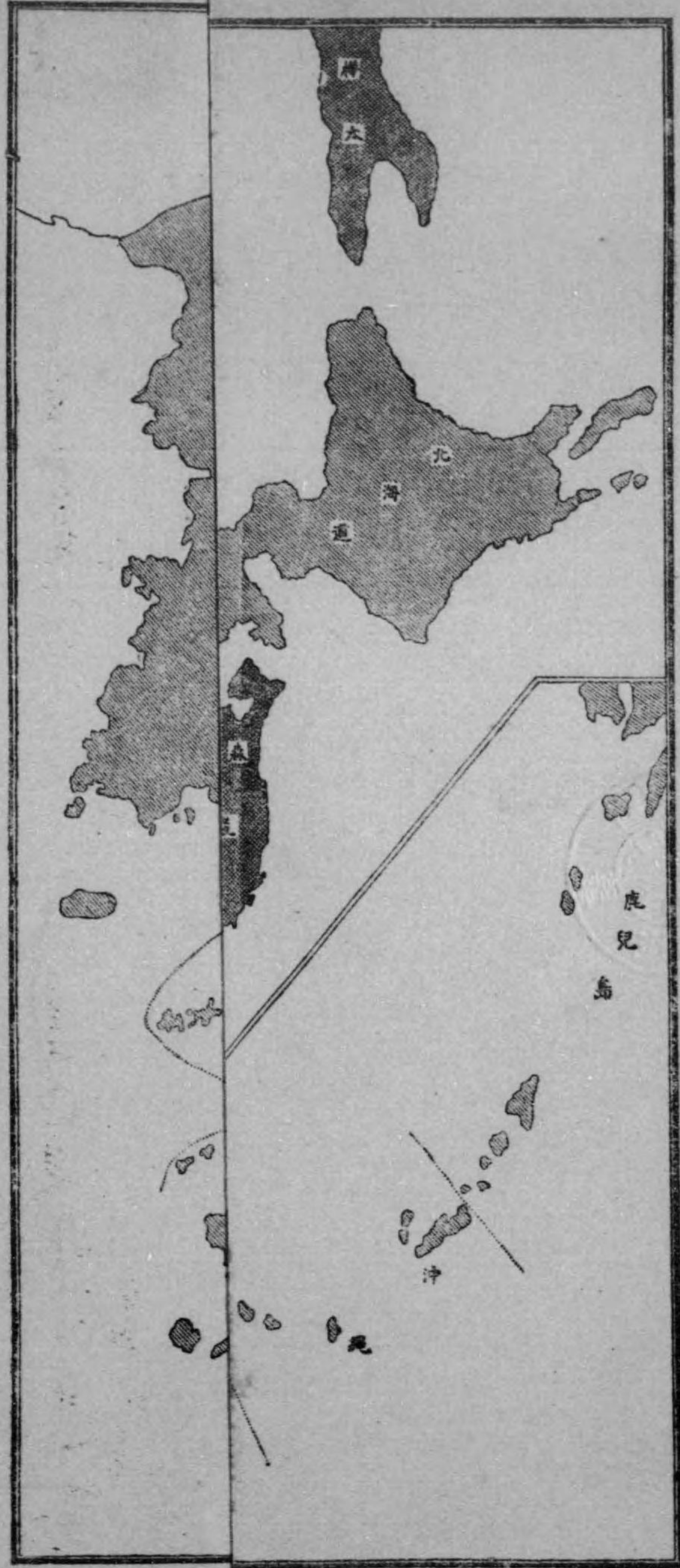
酒 煙草 刺戟性調味料ヲ 節スルコト

睡眠ノ 不足セザルコト 夜深カシ セザルコト 等。

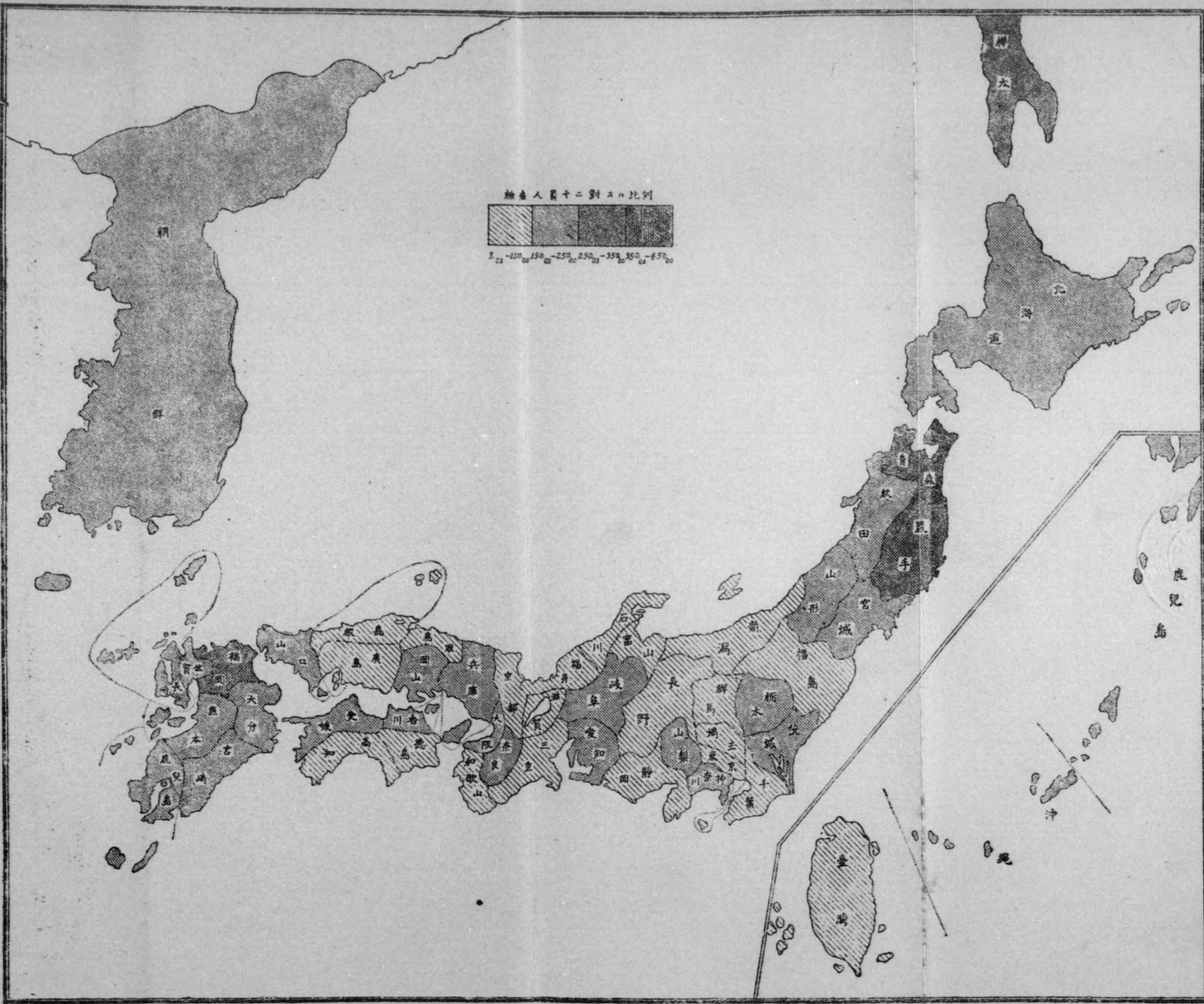
附圖第一

陸軍省調査

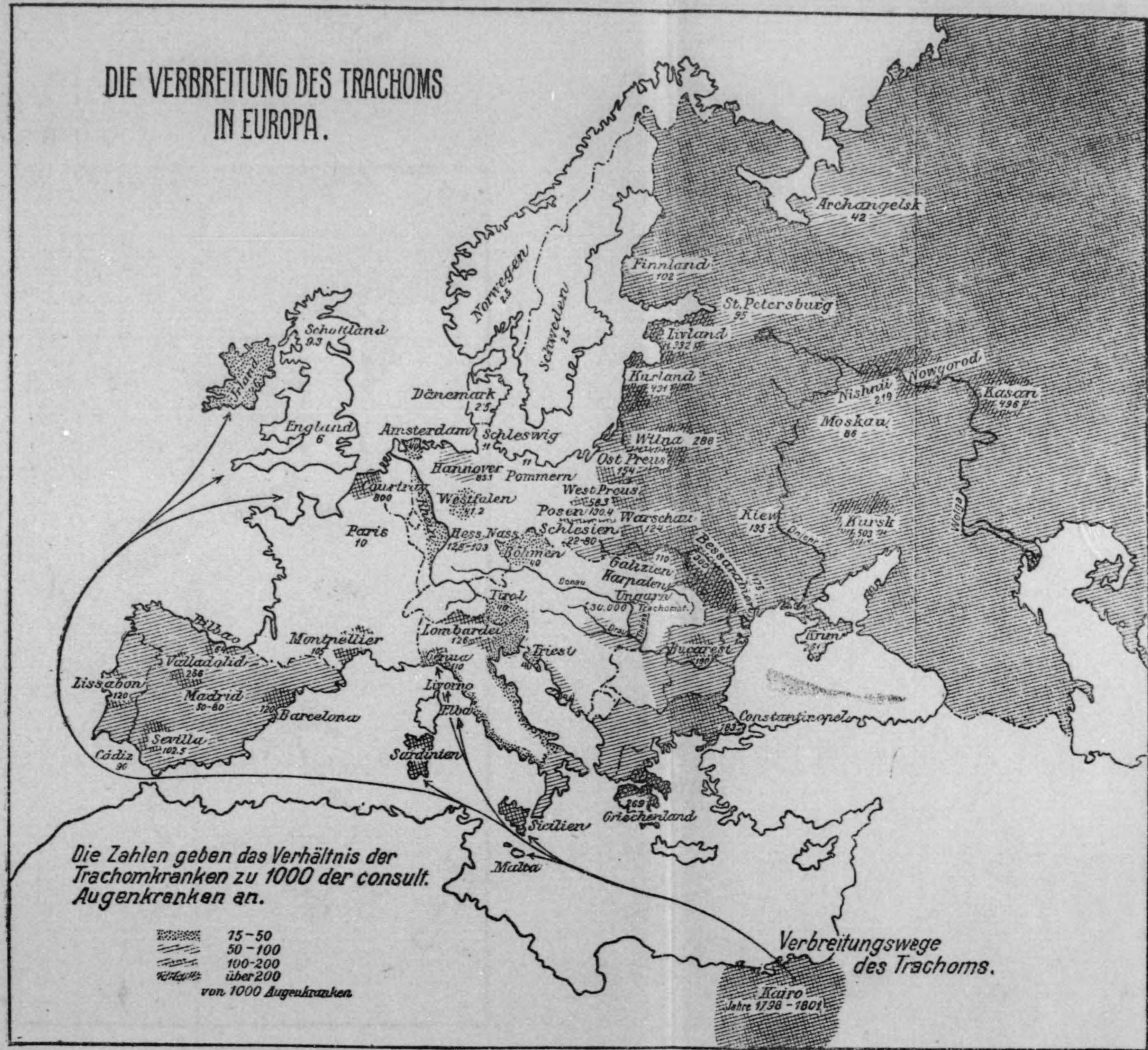
大正七年徵兵トラホーム府縣別比較表



附圖第一 陸軍省調査 大正七年徴兵トラホーム府縣別比較表

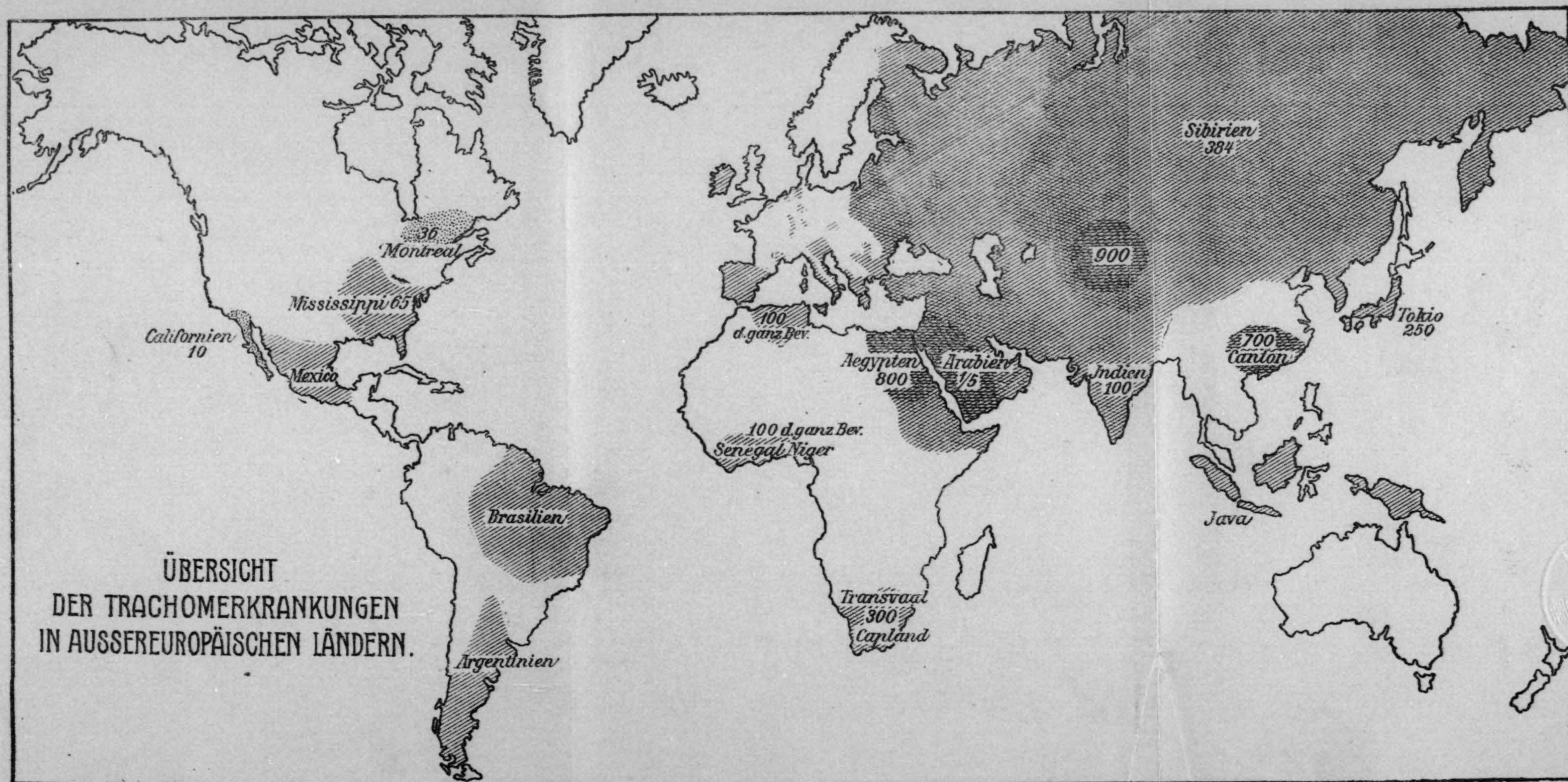


DIE VERBREITUNG DES TRACHOMS
IN EUROPA.



數字ハ眼科患者 1000ニ對スル「トラホーム」患者數トス

附圖 第三 世界ニ於ケル「トラホーム」分布ノ狀ヲ示ス (Stau'eanu: Das Trachom=據ル)



説明ハ附圖第二ヲ見ヨ

附録一 トラホーム豫防法規

『トラホーム』豫防法(大正八年三月廿六日法律第二十七號)

第一條 醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ 命令ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

該官吏又ハ吏員ハ 必要ト認ムルトキハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ 指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ 消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第二條 「トラホーム」患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クヘシ

「トラホーム」患者ノ保護者ハ其ノ患者ヲシテ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第三條 行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受ケルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行スル 場合ニ於テハ其ノ費用ハ 患者所在地ノ市町村ノ負擔トス

第四條 行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一 檢診ヲ施行スルコト

二 「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事スルヲ停止スルコト

三 學校、幼稚園、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

地方長官ニ於テ前項第一號ノ檢診ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ 北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘシ

第七條 國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第八條 官廳、公署、官立公立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トラホーム」豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第九條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十條 第四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人

二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第十二條 本法中市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

「トラホーム」豫防法施行期日ノ件 (大正八年八月二十三
日勅令第四百十三號)

トラホーム豫防法ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

「トラホーム」豫防法施行規則

(大正八年八月廿三日
内務省令第十三號)

第一條 「トラホーム」豫防法第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

- 一 患者ノ手拭ハ専用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト
- 二 洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
- 三 患者ノ常用シタル手拭、洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスル時ハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗滌スルコト
- 四 眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル専用ノ布片類ヲ用キルコト

五 指爪ヲ短剪シ顔面手指ノ清潔ニ注意スルコト

第二條 學校、幼稚園、製造所又ハ鐵道電車船舶自動車馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於テハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ

一 貸手拭又ハ共用手拭ヲ備ヘサルコト但シ使用者毎ニ清潔ナルモノヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二 手洗水ハ流出装置トナスコト

學校、幼稚園、製造所其ノ他地方長官ノ指定シタル場所ニ於テハ前項各號ノ外洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スヘシ

第三條 「トラホーム」豫防法第六條ノ規定ニ依ル北海道地方費又ハ府縣ノ補助ハ左ノ區分ニ依ル但シ市町村ノ支出額三十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得

一 治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一以上

二 豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一以上

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第四條 「トラホーム」豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

「トラホーム」豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ「トラホーム」豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

トラホーム豫防法施行ニ關スル 注意事項

衛發第二〇二號

大正八年八月二十八日

衛生局長

各地方長官宛(東京ハ總監及知事連名)

「トラホーム」豫防法施行=付依命通牒

來ル九月一日ヨリ「トラホーム」豫防法及其ノ施行規則施行相成候處實施上注意スヘキ事項等左記ノ通仰了知相成度

一 法第一條第二項=依リ當該官吏又ハ 吏員ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ノ内容=關シテハ大體=於テ施行規則第一條ノ 醫師ノ指示スヘキ 事項=準據スルコト尤モ患家ノ狀況等=依リ右事項以外= 涉リ豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ指示スルヲ得ルコト

二 施行規則第一條=規定スル醫師ノ 指示スヘキ事項ハ醫師ノ 指示スヘキ義務ノ最大限ヲ定メタルモノナルト同時= 醫師ノ指示ヲ遵守スヘキ 義務ノ範圍ヲ確定シタルモノナリ尤モ本則ノ定ムル 事項以外=豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ 指示スルモ妨ケナク只此ノ場合=於テハ 指示ヲ受ケタル者ハ 法律上之ヲ遵守スヘキ 義務ナキモノナルコト

三 法第一條ノ義務不履行=對シテハ 法第九條=依リ科料= 處セラルヘシト雖モ制裁ヲ以テ蒞ムハ豫防上已ムヲ得サル 場 =限ルヘク妄リ=此等ノ 者=制裁ヲ加ヘサルコト

四 法第三條=依リ警察署長又ハ 警察分署長=於テ 治療ヲ受クル途ナキ「トラホーム」患者=對シ治療ヲ 施行スル=當リテハ豫メ患者所在地ノ 市町村長ト親シク協議スヘク若シ協議調ハサル場合=於テハ地方長官ノ指揮ヲ受ケシムルコト

五 法第四條第一項第二號=依リ行政官廳=於テ「トラホーム」患者=對シ客=接スル業務=従事スルコトヲ停止スル 場合=於テハ妄リ= 自由ヲ拘束スルカ如キコトナキ様慎重=之ヲ決セラレタシ 尙従業ヲ停止スヘキ業態及患者ノ 症狀ハ大體左ノ標準=據ルコト

(甲)従業停止ヲ行フヘキ業態

旅店、下宿屋、料理店、理髮店。其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所=於ケル従業者=シテ直接客=接スル者及看護婦、按摩、鍼灸業者、藝妓、娼妓其ノ他直接客=接スル業務=従事スル者

(乙)従業停止ノ必要アル患者ノ症狀ノ程度

第十項=定ムル診斷分類標準中重症「トラホーム」ノ一=該當スルモノ

六 「トラホーム」豫防ノ爲メ此ノ際可成専任技術官ヲ設置セラレタキコト

七 工場法及鑛業法ノ適用セラル、工場及鑛業=對シテハ 該法=特別ノ規定アル範圍=於テハ本法ハ適用セラレサルコト

八 施行規則第二條=掲ケタル事項ハ 全國一般=遵守セシムル 必要アル事項ナルヲ以テ此ノ以外=尙地方ノ事情=因リ 豫防上必要アリト認ムル事項ハ 地方長官=於テ之ヲ命スルヲ妨ケサルコト

九 市町村ノ豫防及治療ノ關スル施設ノ 完備ヲ獎勵スル爲メ 市町村ノ支出シタル此等ノ費用=對シ府縣=於テハ可成充分ノ補助ヲ爲スコト

十 「トラホーム」診斷分類=付テハ左ノ標準=據ルコト

「トラホーム」診斷分類標準

「トラホーム」豫防上傳染力ノ強弱及治療ノ緩急=基キ「トラホーム」ヲ重症輕症ノ二種=分チ別=疑似症ヲ設ク

重症

重症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、結膜=汎ク顆粒簇生スルモノ 顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ増殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ

二、「トラホーム」性「バンスス」ヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

輕症

輕症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、顆粒ノ發生、乳嘴ノ増殖等「トラホーム」性病變カ驗結膜ノ内外眥部半月狀皺襞又ハ穹窿部=限局スルモノ

二、結膜=於ケル病變程度ニシテ分泌少ナキモノ

疑似症

「トラホーム」疑似症トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、「トラホーム」=類似スル症狀アルモ直ニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

二、結膜=「トラホーム」經過ノ疑アル痕跡ヲ伴フモノ

『トラホーム』診断指針

(一、「トラホーム」診断指針ハ「トラホーム」診断ノ指針ヲラシムル)
爲内省鳴託醫學博士石原忍ナシテ記述セシメタルモノナリ

第一 「トラホーム」ハ一種ノ傳染性結膜炎ニシテ通常極メテ徐々ニ始マリ慢性ニ經過シ結膜殊ニ上下穹窿部、半月狀皺襞次テ眼結膜ノ内外背部尙進ンテ眼結膜ノ全般ニ發赤、肥厚、潤濁ト共ニ顆粒ヲ發生シ眼結膜ニ於テハ尙乳嚢ノ増殖ヲ來シ自覺的眼脂ノ分泌眼精疲勞等アリ

是等ノ他覺的及自覺的症狀ハ通常數年間繼續シ其ノ間一弛一張シ終ニハ汎發性瘢痕ヲ形成シテ治癒ス

「トラホーム」ハ又稀ニ急性ニ發病スルコトアリ此場合ニハ上下穹窿部及眼結膜著シク發赤、腫脹、潤濁シテ表面粗糙トナリ分泌比較的多カラサレトモ凝固性ニ富ミ急性結膜炎ノ治療ヲ加フルモ容易ニ輕快セス通常數週間持續シ炎症ノ輕快スルニ從ヒ漸次顆粒ヲ現ハシ終ニ微細ナル瘢痕ヲ胎シテ治癒ス又時トシテ慢性ニ移行スルコトアリ「トラホーム」ノ經過中ニ屢々角膜ニ「パンヌス」ヲ起スコトアリ然ルトキハ自覺的羞明、流淚、異物ノ感乃至疼痛アリ又瞳孔侵サレハ視力減退ス他覺的ニハ角膜上縁ニ接スル球結膜充血シ角膜ノ上部潤濁シテ表面粗糙トナリ結膜ノ血管ニ進入ス「パンヌス」ノ經過モ略シ結膜ニ於ケル病變ノ經過ニ等シク一弛一張終ニ瘢痕(角膜竅)ヲ胎シテ治癒ス

「パンヌス」ノ外「トラホーム」ノ合併症トシテ角膜ニ加答兒性潰瘍ヲ發生スルコトアリ其好シテ起ル部位ハ角膜ノ周邊部ナレトモ時トシテ又中央部ニ起ルコトアリ潰瘍ノ恢復期ニハ屢々結膜ヨリ血管進入シテ恢復性「パンヌス」ヲ形成ス

結膜及角膜ノ外「トラホーム」ハ又涙器ヲ侵ス涙器ノ「トラホーム」ハ通常他覺的著變ヲ認メズ自覺的ニモ亦其瘢痕期ニ鼻淚管狭窄ノ爲流淚症ヲ訴フルコトアルニ過キサルヲ常トス但シ往々慢性淚囊炎ヲ併發シ淚囊部ヲ壓迫スレハ涙點ヨリ濃汁ヲ漏出スルコトアリ

「トラホーム」ハ好シテ眼瞼ノ深部ニ進入シ且瘢痕化スルヲ以テ其ノ末期ニ於テハ屢々眼裂縮小シ眼瞼内瞼シ睫毛亂生シ爲ニ角膜ハ睫毛ノ機械的刺戟ヲ受ケテ發炎シ潤濁ス

第二 「トラホーム」ハ即チ「トラホーム」性結膜炎ナリ故ニ之ヲ診斷スルニハ

(イ) 結膜、角膜等ニ炎症ノ存在スルコト

(ロ) 其炎症ガ「トラホーム」性ノモノナルコト
ノニツガ必要ナリ

第三 「トラホーム」ノ診斷ハ主トシテ内眼の所見ニ依ルノ外ナキヲ以テ從テ大ニ熟練ヲ要スルノミナラス豫メ健常結膜及角膜ノ所見ヲ十分ニ知得スルコト肝要ナリ

健常結膜ノ要件ハ其菲薄透明ニシテ表面滑澤ナルコトナリ從テ其色鮮ニシテ能ク下層ノ組織ヲ透視シ明ニ血管走行ノ狀ヲ見ルコトヲ得

健常角膜ノ上縁ハ境界判然タル半月狀ノ半透明ノ一帯ヲ以テ鞏膜ト界セラル

第四 検査ノ順序ハ概ネ左ノ如クスルヲ便トス

先ツ下眼瞼上ニ拇指ヲ置キ被檢者ヲシテ上方ヲ見シメ下眼結膜及下穹窿部ヲ檢ス次テ上眼瞼ヲ翻轉シテ上眼結膜ヲ見尙一方ノ拇指ヲ以テ翻轉シタル儘上眼瞼ヲ上方ニ牽引シ被檢者ヲシテ下方ヲ見シメツ、他方ノ拇指或ハ示指ト中指トヲ以テ下眼瞼上ヨリ眼球ヲ少シク後方ニ壓スレバ通常上穹窿部ヲ見ルコトヲ得次テ内眥ニ近ク上眼瞼ヲ上方ニ牽引シ被檢者ヲシテ外下方ヲ見シメ半月狀皺襞ヲ檢ス次ニ要スレハ指ヲ以テ淚囊部ヲ壓迫シ涙點ヨリ膿或ハ其他ノ液體ノ出ツルヤ否ヲ檢ス

角膜ノ微細ナル變化ヲ見ルニハ斜照法ヲ行ヒ尙要スレハ「ルーペ」ヲ以テ擴大シ檢スヘシ

第五 「トラホーム」ノ診斷上必要ナル症狀ハ概ネ左ノ如シ

(一) 結膜ノ發赤、肥厚、潤濁及乳嚢ノ増殖

(二) 顆粒

(三) 汎發性瘢痕

(四) 「トラホーム」性「パンヌス」

(五) 眼瞼内瞼症、睫毛亂生症、眼裂縮小症、後眼球癒着症等ノ續發症

而シテ「トラホーム」ト診斷シテ概ネ誤ナキ場合ハ左ノ如シ

(イ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嚢ノ増殖ト同時ニ顆粒ノ存在スル場合

(ロ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嚢ノ増殖ト同時ニ汎發性瘢痕ノ存在スル場合

(ハ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嚢ノ増殖ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合

- (ニ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嘴ノ増殖ト同時ニ「トラホーム」續發症ノ存在スル場合
- (ホ) 膠様ノ大ナル顆粒ノ存在スル場合
- (ヘ) 顆粒ト同時ニ汎發性瘰癧ノ存在スル場合
- (ト) 顆粒ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合
- (チ) 顆粒ト同時ニ「トラホーム」續發症ノ存在スル場合
- (リ) 汎發性瘰癧ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合

「トラホーム」性「パンヌス」ノミアリテ他ニ全く變化ナキモノハ之ヲ「疑似症ト爲ス」トシ又「トラホーム」續發症ノミアルモノハ場合ニ依リ疑似症ト爲シ或ハ「トラホーム」ノ既ニ治癒シタルモノト爲スナ可トス

第六 結膜ノ發赤、肥厚、潤濁及乳嘴ノ増殖ハ慢性結膜炎ニ共通ノ症狀ニシテ「トラホーム」ノ診斷上最必要ナルトモ唯此レノミヲ以テ直チニ「トラホーム」ト診斷スルコト能ハス必ス同時ニ他ノ前記ノ症狀ノ一ツ或ハ二ツ以上ヲ具備セサルヘカラス(第五參照)

第七 顆粒ト濾胞トハ組織學上大差ナキモノニシテ只「トラホーム」ノ時ニ之ヲ顆粒ト稱シ他ノ良性ノモノハ之ヲ濾胞ト謂ヒテ區別スルノミ

顆粒(濾胞)ハ組織學上白血球ノ聚落ニシテ大小種々アリ圓形又ハ楕圓形ニシテ境界判然タルモノナレトモ之ヲ圍邊スル組織ノ異ナルカ爲ニ臨床上左ノ如キ各種ノ狀ヲ呈ス

- (イ) 濾胞ノ周圍ノ結膜健康ニシテ菲薄透明ナラハ濾胞ハ一見水泡ノ如ク境界判然トシテ半球狀ニ突出ス之ヲ結膜濾胞症ト謂フ結膜濾胞症ノ濾胞ハ小ニシテ其好發部位ハ下穹窿部ナリ
- (ロ) 結膜濾胞症ニ單性結膜炎ヲ合併セルモノヲ濾胞性結膜炎ト謂フ此場合ニハ濾胞ノ周圍ニ發赤腫脹シタル組織アルヲ以テ濾胞モ亦若干發赤腫脹シテ見ユ「トラホーム」トノ相違ハ結膜ニ肥厚、潤濁及乳嘴ノ増殖ノ著シカラサルコト及濾胞ノ通常小ニシテ主トシテ下穹窿部ニアルコトナリ然レドモ時トシテ濾胞ノ下穹窿部以外ニモ發生スルコトアリ又周圍ノ潤濁ノ比較的高度ナルコトアリテ「トラホーム」ニ極メテ類似ノ狀ヲ呈スルコトアリ但シ濾胞ハ決シテ相融合スルコトナク又大ナル膠様ノ顆粒ヲ形成スルコトナシ

- (ハ) 「トラホーム」顆粒ノ特徴ハ周圍ニ肥厚、潤濁シタル組織アリ或ハ乳嘴増殖シテ顆粒ヲ蔽ヒ爲ニ顆粒ハ潤濁シテ境界明カナラサルコトナリ而シテ穹窿部及半月狀皺襞ニ於テハ顆粒ハ通常濾胞ヨリモ大ニシテ稍隆起スレトモ險結膜ニ於テハ通常隆起スルコトナク帶黃色ノ斑點トナリテ現ル又乳嘴増殖ノ著シキ場合ニハ顆粒ハ全く其中ニ埋没シテ見エサルコトアリ
- (ニ) 「トラホーム」ノ瘰癧期ニ主トシテ穹窿部及半月狀皺襞ニ大ナル膠様ノ顆粒ヲ發生スルコトアリ此場合ニハ周圍ノ組織ハ既ニ大部分瘰癧トナリテ收縮シ結膜菲薄ナルヲ以テ顆粒ハ稍半球狀ニ突出シ帶黃白色ニシテ光澤アリ一見膠様ノ觀ヲ呈シ好シテ相融合シテ花壇狀ヲ爲シ壓スレハ容易ニ破壊ス此膠様ノ顆粒ハ稀ニ結膜ノ他ノ部分即チ險結膜、球結膜又極メテ稀ニ角膜ニモ發生スルコトアリ瘰癧期ニ於ケル險結膜ノ顆粒ハ稀ニ膠様ノ觀ヲ呈スレトモ多クハ之ヨリ小ニシテ隆起セス帶黃白色ニシテ境界判然ナリ

濾胞性結膜炎ト「トラホーム」トノ相違ハ本態及原因ノ相違ト經過及豫後ノ相違トナリ而シテ本態及原因ハ容易ニ之ヲ知リ難キモ經過ヲ觀察スルトキハ濾胞ハ瘰癧ヲ胎サスシテ比較的容易ニ治癒シ「トラホーム」ハ之ニ反ス

第八 結膜ニ於ケル汎發性瘰癧珠ニ上險結膜ニ汎發スル瘰癧ハ「トラホーム」以外ノ疾患ニ因リテ來ルコト殆ソトナシ故ニ結膜珠ニ上險結膜ニ汎發性瘰癧アラハ現在「トラホーム」ニ罹レルカ若クハ嘗テ「トラホーム」ニ罹リタルコトアルカノ何レカナリト謂フコトヲ得而シテ現在「トラホーム」ニ罹リ居ルコトヲ診定スル爲ニハ必ス尙「トラホーム」性炎症ノ存在スルコトヲ確カメサルヘカラス(第五參照)然ルニ吾人ノ結膜ハ外界ノ種々ナル刺激ニ因リテ容易ニ發炎スルモノナルヲ以テ「トラホーム」ノ既ニ治癒シタル後モ往々ニシテ尙結膜炎ノ症狀ヲ呈シ屢々「トラホーム」ノ治否ニ就イテ診斷ニ迷フコトアリ斯ノ如キ場合ニハ暫ク之ヲ疑似症トシ經過ヲ觀察スルヲ可トス然ルトキハ「トラホーム」ノ未ダ治癒セサルモノナラハ一二年ノ經過中ニハ通常再ヒ増悪シテ其特有ノ症狀ヲ現ハスモノナリ

「トラホーム」ハ一旦治癒シタル如ク見ユルモ好テ再發増悪スルモノナルヲ以テ診斷ニ方々注意スルヲ要ス

第九 「トラホーム」性「パンヌス」ハ極メテ特種ノ形狀ヲ爲シ常ニ角膜上縁ヨリ始マリ

漸次下方=進行シ其ノ下縁ハ概テ概ニ走レル線ヲ以テ界セテレ結膜ノ血管叢條概
ネ縦ニ相平行シテ垂下シ其狀宛モ塵ヲ垂レタルカ如シ

「パンヌス」ノ治療後ニハ露ヲ胎シ角膜上縁ニ於ケル鞏膜トノ境界不明瞭トナリ屢
細小ナル血管ノ之ニ進入スルヲ見ル

「パンヌス」ト「パンヌス」ヲ經過後ノ角膜翳トノ臨床上ノ相違ハ「パンヌス」ニハ角膜炎
ノ症狀アリ即チ自覺の羞明、流淚、異物ノ感等アリ他覺の角膜ノ潤濁及其表面ノ粗
糙、球結膜ノ充血ヲ呈スレトモ角膜翳ハ自覺的ニハ唯場合ニ依リ視力障碍アルノミ他
覺の角膜潤濁スレトモ其表面滑澤ニシテ球結膜ニ充血ヲ見サルニ在リ

第十 眼瞼内腫症、睫毛亂生症等痙攣收縮ニ因スル諸種ノ續發症カ相合併シテ兩眼ニ來
ルハ殆ント常ニ「トヲホーム」ニ基因スルモノナリ然レトモ痙攣ハ炎症ニアラサルヲ
以テ之ヲ「トヲホーム」ト診斷スル爲ニハ必ス結膜ニ尙「トヲホーム」性炎症ノ存在ス
ルコトヲ確メサルヘカラス(第五參照)

眼瞼内腫症、睫毛亂生症等アルトキハ睫毛角膜ヲ摩擦シテ屢、角膜炎乃至「パンヌス」
ヲ起ス而シテ此角膜炎乃至「パンヌス」ハ「トヲホーム」性「パンヌス」トハ全然別種ノ
モノニシテ診斷上必要ナルモノニハアラス然レトモ斯ノ如キ場合ニハ通常結膜モ亦
若干ノ炎症々狀ヲ呈スルヲ以テ「トヲホーム」ノ既ニ治療シタリヤ否ヤノ診斷困難ナ
ルコト屢、アリ此場合ニハ前ニ第六ニ於テ述ヘタルカ如ク暫ク疑似症トシテ其ノ經
過ヲ觀察スルヲ可トス

眼瞼内腫症、睫毛亂生症等ハ傳染ノ顧慮ヨリスレハ殆ント意義ナキモノナレトモ角膜
ヲ刺戟シ視力ヲ害スルヲ以テ治療ヲ要スル點ニ於テハ「パンヌス」又ハ角膜潰瘍ニ準
シテ取扱ハルヘキモノナリ

第十一 「トヲホーム」ノ傳染ハ患者ノ眼脂ヨリスルモノナルヘキヲ以テ豫防上ヨリ見
レハ分泌ノ多量ナル「トヲホーム」ハ傳染ノ虞レ大ナルモノトシテ最注意スルヲ要ス
然レトモ分泌ノ量ハ容易ニ之ヲ知り難キヲ以テ分泌ハ概テ結膜ニ存スル炎症ノ程度
ニ比例スルモノト看做シ結膜炎ノ高度ナルモノヲ以テ傳染ノ虞レ大ナルモノトシ之
ヲ重症トシテ處置スルヲ適當トス

又角膜ニ「パンヌス」或ハ潰瘍アリ或ハ眼症内腫症、睫毛亂生症等アル者ハ速ニ之ヲ治
療セサレハ視力ノ障碍益、大ナルヘキヲ以テ治療ヲ要スル程度ト患者ノ苦痛トノ方

面ヨリ亦之ヲ重症ニ加フルヲ可トスレトモ其ノ傳染力ハ邊ニ前者ノ後ニアルモノト
謂フヘシ

第十二 經過ヲ觀察セサレハ「トヲホーム」ナリヤ否ヤノ診斷ナシ難キ場合概テ左ノ
如シ

(イ) 結膜ニ炎症アリ且滲胞等アリテ「トヲホーム」ノ疑アルモ直チニ「トヲホーム」
ト診定シ難キモノ

(ロ) 結膜ニ汎發性痙攣アリ或ハ眼瞼内腫症、睫毛亂生症等アリ或ハ角膜上部ニ「パ
ンヌス」經過後ノ翳アル等一旦「トヲホーム」ニ罹リタル痕跡アリ且結膜ニ若干
ノ炎症々狀アリテ尙「トヲホーム」再發ノ虞レアルモノ

第十三 「トヲホーム」診斷分類標準中重症一ハ結膜ノ炎症高度ニシテ角膜潰瘍及眼瞼
内腫症、睫毛亂生症等ニ因スル角膜炎等モ之ニ準スヘキモノナリ(第十一參照)

輕症一ハ初期ノ「トヲホーム」ナリ(第一參照)但シ初期ノ「トヲホーム」ト雖分泌旺盛
ニシテ傳染ノ虞レ大ナルモノハ重症一ニ入ルヘキモノトス又輕症二ハ結膜ニ於ケル
炎症輕ク分泌少ク傳染ノ虞レ亦比較的大ナラサルモノナリ

疑似症ハ第十二ニ述ヘタルモノニシテ豫防及治療上「トヲホーム」ニ準シテ處置スヘ
キモノナリ

「トヲホーム」ハ何レノ時期ニモ傳染力ヲ有ス而シテ重症ト謂ヒ輕症ト謂フハ唯其ノ
傳染力ノ程度ニ差アルヲ示スノミナリ而シテ疑似症中ニハ傳染力ノ大ナルモノモ小
ナルモノモ又皆無ナルモノモアリ

附録二 トラホーム用薬物及処方

ABC 順索引

- A アドレナリン..... XLV.
- アイロール..... XLIV.
- アルギロール..... XLVI.
- B バンカイン..... IV. XXVI.
- C チアン汞..... IX. LV.
- チクロール..... XII. XXXII.
- チオジナミン..... X.
- D デルマトール..... XLIII.
- デオニン..... XI.
- 碓砂..... VIII. XXVIII.
- E 鹽化アドレナリン... XL. XLV.
- 鉛鉛..... XLI. LIII.
- 鹽酸ゴカイン..... XLII. XXXVII.
- 鉛糖..... XXXIX. XLVII.
- F フイブロリジン..... XXXIII.
- フルオレスチン } XXXIV.
- フルオレスセイン }
- フォルマリム..... XXXV.
- H 白降汞..... III.
- 硼酸..... VI.
- 硼砂..... VII.
- I イヒチオール..... II.
- イトロール..... I.
- J デオニン..... XI.
- 次醋酸鉛液..... LIII.
- ヨードフォルム..... XXI.
- ヨード酸..... XXII.
- K 過マンガン酸カリウム... XXIX.

- 可溶性枸橼酸銅..... XX. XXXII.
- キセロフォルム..... XLIX.
- 皓礬..... XXXVIII. XIV.
- コカイン..... XXXVII.
- 枸橼酸銅..... XXXI.
- クプロチトロール.. XXX. XXXI.
- クロールアムモニウム... XXVIII.
- クロールナトリウム.. XXVII. LII.
- クシロール..... XXXII.
- M 明礬..... L.
- N ナルベリジン..... XXV. XXXIII.
- ネオカイン..... XXIV. XXVI.
- ノウオカイン..... XXVI.
- 乳酸..... V.
- O オイカイン..... XV.
- 黄降汞..... XVII.
- オキシチアン汞..... XIX. LVI.
- オルトフォルム..... XVI.
- 黄色酸化汞..... XVIII. XVII.
- P ヒオクタニン..... LIV.
- プロタルゴール..... XXXVI.
- R 硫酸亞鉛..... XIV.
- 硫酸銅..... XIII.
- S 醋酸鉛..... XLVII.
- 酸化チアン汞..... XLVIII. LVI.
- 青酸汞..... VI.
- 青酸々化汞..... LVI.
- 石炭酸..... LVIII.
- 昇汞..... LI.

- 食鹽..... LII.
- 硝酸銀..... LVII.
- スヒカイン..... LIX. XXVI.
- T タンニン酸..... XXIII.
- チオジナミン..... X.
- Y ヨードフォルム..... XXI.
- ヨード酸..... XXII.

(主薬名イロハ順)

I. イトロール

Itrol.

枸橼酸銀ナリ。白色 微細ノ粉末。水ニ溶解シ難キヲ以テ 水溶液ヲ製スルニハ 先ヅ本劑ニ 少量ノ冷水ヲ加ヘテ 振盪シ 之ニ殘餘ノ水ヲ 熱シテ加ヘ 振盪スベシ。無刺激性消毒薬ナリ。光ニヨリテ 變化スルヲ以テ 著色壺ニ容レ 貯フベシ。

- 1 イトロール
以上 褐色廣口壺ニ入レ 毛筆ヲ以テ 結膜面ニ撒布ス。1日1回 (膿
漏性結膜炎 トラホーム)。但シ 特異質アリテ 角膜ニ 浸潤ヲ起スコトアルヲ以テ 注意スベシ。

II. イヒチオール

Ichthyol.

本名 スルフォイヒチオール酸アムモニウム。焦土様ノ臭氣アル 暗赤褐色 テール狀ノ液。水ト混和ス。消炎 防腐 及 鎮痛ノ效アリ。

- 2 イヒチオール 0.15
亞鉛華 5.0
澱粉 3.0
ワセリン 15.0
以上研和 爲ベートルス氏泥膏 1
日1-3回 點眼 (急性結膜炎 重桿菌性結膜炎)
- 3 イヒチオール 0.2-0.5
亞鉛華 } 各 10.0
澱粉 }
ワセリン 25.0
同上
4 イヒチオール 1.0
亞鉛華 0.1-1.0
澱粉 1.0
ワセリン 10.0

同上 (アキセンフェル下氏)		以上混和 結膜面=塗布 $\frac{1}{2}$ —1 分 時ノ後 水ヲ以テ洗滌ス (結膜炎)	
5 イヒチオール	5.0—10.0	7 イヒチオール	3.0—10.0
蒸餾水	10.0	ワセリン	10.0
以上混和 1日1回 眼瞼結膜面=塗 布 後 1—2分間 按摩ス (結膜炎 (バナ氏))		以上研和 貼用 (眼瞼縁炎 麥粒腫 急性涙囊炎)	
6 イヒチオール	5.0	8 イヒチオール	0.1—1.0
グリセリン	1.0	ワセリン	10.0
蒸餾水	4.0	以上點眼 按摩 (春季加答兒)	

III. 白 降 汞

Hydrargyrum
præcipitatum album.

白色ノ粉末 又ハ 塊片 主ニ軟膏トシテ 眼瞼縁炎 脂漏性濕疹等ニ用ヒラル。弱キ腐蝕
作用 及 防腐ノ效アリ。

9 白降汞	0.1—0.5	同上	
ワセリン (又グリセ リン軟膏)	10.0	11 白降汞	0.5
以上研和 不透明器ニ容レ 塗布料 (眼瞼縁炎)		亜鉛華	5.0
10 白降汞	0.1—0.5	ワセリン	10.0
ラノリン	} 各 5.0	同上 (頭部濕疹)	
ワセリン			

IV. バンカイン

Banpain.

ノウオカイント同一物ナリ。

V. 乳 酸

Acidum lacticum.

無色 無臭 舍利別狀ノ液。水ト混和ス。專ラ 結膜結核ニ用ヒラル。刺戟強キヲ以テ
豫メ コカイン水 ノ點眼ヲ要ス。

12 乳酸

以上結膜面=塗布 後 直チニ水ヲ以テ洗滌ス (結膜結核)

13 乳酸	} 各 5.0
蒸餾水	
同上	

VI. 硼 酸

Acidum boricum.

無色ノ結晶。25倍ノ水ニ溶解ス。刺戟ナキ 弱キ 消毒 及 收斂藥。

14 硼酸	20.0—30.0	ワセリン	20.0
水	1000.0	以上研和 塗布料 (無刺戟性軟膏)	
以上洗滌料 或ハ 電法料		17 硼酸	0.1—0.2
15 硼酸	10.0	茴香水	1.0
サリチール酸	1.0	蒸餾水	9.0
水	500.0	以上點眼料 1日3回 (無刺戟性點眼 液) (春季加答兒)	
以上洗滌料			
16 硼酸	0.5—1.0		

VII. 硼 砂

Borax.

白色ノ結晶。17倍ノ水ニ溶解ス。弱キ收斂藥。

18 硼砂	0.3	19 硼砂	} 各 4.0
硼酸	0.1	重曹	
蒸餾水	15.0	食鹽	
以上點眼料。1日3回 (慢性結膜炎)		蒸餾水	400.0
		以上電法料	

VIII. 鹵 砂

Salmiak.

クロールアムモニウムノ條下ヲ見ヨ。

IX. チア ン 汞

Hydrargyrum cyanatum.

青降汞ノ條下ヲ見ヨ。

X. チオジナミン

Thiosinamin.

苦味ヲ有スル無色ノ結晶。水ニ溶解ス。瘰癧ヲ軟化 吸收セシムルノ效アリ。之トサ
リチール酸ナトリウム トノ複鹽ヲ フィプロリジント云フ。

20	チオジナミン	} 各 1.0	21	チオジナミン	15.0
	アンチヒリン			アンチヒリン	7.5
	蒸留水	10.0		蒸留水	100.0
	以上點眼 後 按摩 (角膜翳)			同上	

XI. チオニン

Dionin.

苦味ヲ有スル 白色 結晶性ノ粉末。水ニ溶解ス。モルヒネ ノ 透導體ニシテ 結膜ニ用
フレマ 充血 及 浮腫ヲ起シ 灼熱ヲ感ズ。數時ニシテ 經過ス。吸收ヲ促シ 又 鎮痛ノ
效アリ。角膜ノ 潤濁 虹彩炎 角膜潰瘍 等ニ用ヒラル。

22	チオニン	0.2—0.5—1.0	鹽酸ピロカルピン	0.1—0.2	
	蒸留水	10.0	蒸留水	10.0	
	以上點眼 1日1—2回		以上點眼 毎時2—3滴 (膿濃眼ニ合併 セル角膜潰瘍)		
23	チオニン	0.5	25	チオニン	0.1
	青酸々化汞	0.002		ラノリン	} 各 2.5
	蒸留水	10.0		ワセリン	
	同上			以上研和 爲チオニン軟膏 點眼	
24	チオニン	0.1			

XII. チクロール

Ciculol.

クシロール ト同一物ナリ。

XIII. 硫酸銅

Cuprum sulfuricum.

透映藍色ノ結晶。3.5倍ノ水ニ溶解シ 藍青色ノ液トナル。濃厚ナルモノハ 結膜 及 角
膜ヲ腐蝕シ 稀薄液ハ 收斂作用ヲ有ス。主トシテ慢性結膜炎 殊ニ トヲホーム ニ用ヒ
ラル。

26	硫酸銅	0.05	同上		
	薔薇水		30	硫酸銅	0.05—0.25
	蒸留水	15.0		ワセリン	5.0
	以上點眼 1日3回 (患者自宅用)			以上研和 1日1回點眼	
27	硫酸銅	0.1	31	硫酸銅	} 各 0.25
	蒸留水	} 各 10.0		鹽酸コカイン	
	グリセリン				グリセリン軟膏
	同上 (同上)			同上 (ヒルシュベルグ氏)	
28	硫酸銅	0.5—2.0	32	硫酸銅結晶	
	蒸留水	} 各 10.0		以上濕シタル砥石ヲ以テ磨シ 稜角 ヲ去リテ 平滑ニシ 結膜面ヲ 輕ク 2—3回擦過シ 直チニ 水ヲ以テ洗 滌ス (慢性トヲホーム)	
	グリセリン				
29	硫酸銅	0.5			
	蒸留水	10.0			

XIV. 硫酸亞鉛

Zincum sulfuricum.

別名 皓礬。無色ノ結晶ニシテ 水ニ溶解ス。硝酸銀ト並ンテ 最も多ク用ヒラル、所ノ
必要ナル收斂劑ナリ。

33	硫酸亞鉛	0.03—0.05	37	硫酸亞鉛	0.05
	蒸留水 (或ハ1%食鹽水)	10.0		阿片丁幾	0.1
	以上點眼 1日3回 (結膜炎)			蒸留水	15.0
34	硫酸亞鉛	0.03		茴香水	5.0
	茴香水 (或ハ杏仁水)	2.0		同上 (シュミット リムブレル氏)	
	蒸留水 (或ハ1%食鹽水)	8.0	38	礬砂	0.5
	以上點眼 1日3回 (結膜炎)			硫酸亞鉛	1.25
35	硫酸亞鉛	0.02—0.04		蒸留水	200.0
	鹽化アドレナリン (1:1000)	1.0		以上混和 之ニ	
	蒸留水	9.0		精製樟腦	0.4
	同上			酒精 (70%)	20.0
36	硫酸亞鉛	0.03—0.05		ノ溶液 及	
	鹽酸コカイン	0.05		サフラン	0.1
	蒸留水 (或ハ1%食鹽水)	15.0		ヲ加ヘ 24時間温浸シ 其間屢振盪シ 後 濾過ス。爲黃色收斂性眼水 適宜稀釋シ	
	同上				

點眼ス(ホルスト氏)		蒸餾水	100.0
39 硫酸亞鉛	0.05—0.1	杏仁水	25.0
米國製白色ワセリン	10.0	以上洗滌料 1日3回(結膜炎 眼瞼緣炎)	
以上研和 爲眼軟膏 點眼			
40 硫酸亞鉛	0.1—0.2		

XV. オイカイン

Eucaïn.

通常 鹽酸ベタオイカイン 又ハ 乳酸ベタオイカイン ヲ用フ。白色ノ結晶末。4%マデ水ニ溶解ス。局所麻酔藥トシテ コカイン ニ代用セラル。其長所次ノ如シ。1) 毒性 コカイン ノ $\frac{1}{4}$ — $\frac{1}{5}$ ナリ。2) 熱氣消毒ニ堪フ。3) 溶液ハ約4箇月間 變化セズ。4) 散瞳作用ナシ。5) 角膜ヲ侵サズ。2%ヨリ以上ハ 結膜ヲ刺戟ス。又 コカイン ニ反シテ若干 充血ヲ起スノ不快アリ。

41 鹽酸ベタオイカイン	0.2	鹽化アドレナリン(1:000)	1.0
食鹽	0.08	食鹽	0.08
蒸餾水	10.0	蒸餾水	10.0
以上點眼		以上煮沸滅菌シ 注射料トス	
乳酸ベタオイカイン	0.1		

XVI. オルトフォルム

Orthoform.

無味 無臭 白色 微細ノ結晶性粉末。水ニハ徐々ニ溶解ス。鎮痛 防腐 及 分泌制止ノ効アリ。鎮痛作用ハ 末梢神經露出シアル場合ニ 最も顯著ナリ。

オルトフォルム	0.4	以上研和 爲10%オルトフォルム軟膏 點眼(トラホーム 角膜潰瘍)
ワセリン	各 2.0	
ラノリン		

XVII. 黃 降 汞

Hydrargyrum præcipitatum

flavum.

本名黃色酸化汞。黃色無晶形ノ粉末。水ニ不溶。強キ刺戟劑ニシテ 古來軟膏トナシ 角膜翳 眼瞼緣炎 フリクテン 等ニ用セラル。即チ パーグンスタツヘル氏軟膏ナリ。其

製法種々アリ。硝子上ニ塗抹シ ルーパヲ以テ擴大シ 檢スルモ 黃降汞ノ顆粒ヲ見ザル事ヲ要ス。光線ニ因リ 還元シテ 灰白色トナルヲ以テ 常ニ不透明器ニ貯フル要ス。

44 黃降汞	0.05—0.2—1.0	同上(ジャンツ氏)
米國製白色ワセリン	10.0	
以上密ニ研和シ パーグンスタツヘル氏軟膏 トナシ 不透明器ニ容レ 硝子棒ヲ添フ。1日1—2回 小豆大ヲ點眼シ 3—5分間按摩ス(或ハ眼瞼緣ニ塗布)。		

此ノ製法ハ 先ヅ黃降汞ヲ取り 之ニ約同量ノワセリンヲ加ヘ 硝子製乳鉢ニ容レ 重湯煎上ニ於テ温タメワセリンノ熔融スルヲ度トシテ 重湯煎ヨリ下ロシ 熔融シタルワセリン 中ニテ研磨シ 凝固スレバ 再び温タメテ熔カシ 斯クシテ 高熱ヲ加フルコトナク 研磨スルコト 約20—30分間ニシテ 冷ヤシ 之ニ殘餘ノワセリンヲ加ヘテ 研和スベシ(フックス氏法)。

45 黃降汞(新製未乾燥ノ含水粥狀ノモノ)	0.1—0.5	各 1.0—2.0
ラノリン		
蒸餾水		
米國製白色ワセリン	10.0	

此ノ製法ハ 先ヅ昇汞2.0+食鹽2.0ヲ 温湯40.0ニ溶解シ約30°ノ温ニ冷却シタル後 之ヲ15%ナトロン油劑6.0+水10.0中ニ 攪拌シツ、徐々ニ注加シ 光ヲ遮リ 1時間放置シ 上海液ヲ捨テ 之ヲ30°ノ温湯ヲ以テ 洗滌シ 上清液ヲ捨ツルコト 反復數回ニシテ 其上清液ニ 硝酸銀液ヲ加フルモ 著明ノ濁濁ヲ起サマルニ至リテ 其沈澱ヲ取り 減壓濾過シテ 水分ヲ去リ 之ヲ秤量シ 之ニ約9倍ノ無水ヲノリンヲ加ヘテ 研和スレバ 約10%ノ黃降汞軟膏ヲ得。故ニ 之ニ 更ニ 米國製白色ワセリンヲ加ヘテ 所要ノ濃度トナスベシ。

46 黃降汞	0.25—0.5	各 5.0
ワセリン	10.0	
豚脂		
亞鉛華		
澱粉		
以上研和 塗布(眼瞼濕疹)		

XVIII. 黃色酸化汞

Hydrargyrum oxydatum flavum.

黃降汞ノ條下ヲ見ヨ。

XIX. オキシチアン汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

XX. 可溶性枸橼酸銅

Cuprum citricum solubile.

クシロールト同一物ナリ。

XXI. ヨードフォルム

Jodoform.

光澤アル黄色ノ結晶性粉末。特異ノ臭氣ヲ有シ水ニ不溶。分泌物ニ觸ルレバ徐々ニ分解シテ防腐ノ作用ヲナス。諸種ノ創面ニ用ヒラル。

47 ヨードフォルム粉末	ワセリン	}各 10.0
以上廣口壺ニ容レ毛筆ヲ以テ角膜潰瘍 其他 諸種ノ創面ニ撒布ス	ラノリン	
48 ヨードフォルム末 0.4—2.0	以上研和 1日1—2回點眼	

XXII. ヨード酸

Acidum jodicum.

無色ノ結晶性粉末。同量ノ水ニ溶解ス。腐蝕薬ナリ。

49 ヨード酸 0.1—0.3	50 ヨード酸 0.15
蒸溜水 10.0	米國製白色ワセリン 10.0
以上點眼 1日3回 (トラホーム)	同上 (同上)

XXIII. タニン酸

Acidum tannicum.

タンニン 或ハ鞣酸トモ稱ス。帶黄白色ノ粉末。味 澁ク 水ニ溶解ス。植物性收斂薬ニシテ 同時ニ止血 及 防腐ノ効アリ。

51 タニン酸 0.1—0.5	53 タニン酸 1.0
蒸溜水 10.0	蒸溜水 100.0
以上點眼 1日3回 (長時ノ貯蔵ニ堪ヘズ) (結膜炎)	以上墨法料 (ゴールドチーヘル氏)
52 タニン酸 0.03	54 タニン酸 3.0
杏仁水 2.0	澱粉 1.0
蒸溜水 10.0	グリセリン 20.0
同上	以上混和 塗布料 (表皮剝離部)

XXIV. ネオカイン

Neocain.

ノウオカイント同一物ナリ。

XXV. ナルベリジン

Narbelysin.

フィプロリジント同一物ナリ。

XXVI. ノウオカイン

Novocain.

無色 小鏡状ノ結晶。味微ニ苦ク 同量ノ水ニ溶解ス。局所麻酔薬。効力 コカイント倍伸スレドモ 毒力弱シ。點眼スルモ 瞳孔ヲ散大セシメズ。又眼壓ヲ高ムルコトナシ。注射スルニ 全然 無刺激性ナレドモ 効力ノ持續短カクシテ 僅ニ數分時ニ過ギズ。然レドモ 之ニ アドレナリンヲ加フレバ 麻酔ノ効ヲ高メ 且持續時間ヲ長カラシム。パンカイン スベカイン 及 ネオカインハ 日本製ノウオカインナリ。

55 ノウオカイン 0.5—1.0	}各 2.0
酸化アドレナリン(1:1000) 1.0	
蒸溜水 10.0	
以上點眼 (角膜ノ麻酔)	57 ノウオカイン
56 ノウオカイン 0.2	酸化アドレナリン(1:1000)
鹽化アドレナリン(1:1000) 1.0	無水ラノリン 6.0
蒸溜水 10.0	米國製白色ワセリン 10.0
	以上研和 點眼 1日2—3回

XXVII. クロールナトリウム

Natrium chloratum.

食鹽ノ條下ヲ見ヨ。

XXVIII. クロールアムモニウム

Ammonium chloratum.

硝砂トモ云フ。白色 結晶性ノ粉末 或ハ纖維状ノ 堅キ結晶塊。3倍ノ水ニ溶解ス

58 クロールアムモニウム液(2—12%) 400.0	酒石酸 0.02—0.1
以上眼浴 1日3回 10—20分間 (角膜石灰沈着)	水 100.0
59 クロールアムモニウム 5.0—10.0	以上眼浴 1日數回 1—1時間 (角膜鉛濁濁)

XXIX. 過マンガン酸カリウム

Kalium permanganicum.

紫黑色ノ結晶。16倍ノ水ニ溶解シ 紫紅色ノ液トナル。濃厚液ハ 腐蝕作用アルモ 稀薄液ハ 防腐 防臭 ノ效アリ。主トシテ 膿漏性結膜炎等 ノ洗滌料トシテ用ヒラル。

60 過マンガン酸カリウム	0.1-0.2	蒸留水	20.0
水	1000.0	以上茶碗一杯ノ微温湯ニ 4滴ヲ加ヘ	
以上洗滌料		洗滌料トス (茶碗ヲ 100 グラム ト	
61 過マンガン酸カリウム	1.0	スレバ 約8000倍液トナル)	

XXX. クプロチトロール

Cuprocitrol.

5-10% 枸橼酸銅軟膏。フォン アルト氏 ノ初メテ用フル所ナリ。枸橼酸銅ノ條下ヲ見ヨ。

XXXI. 枸橼酸銅

Cuprum citricum.

綠色 微細ノ 輕キ粉末。水ニ殆ンド不溶。腐蝕作用アリ。5-10%ノ軟膏トナシ クプロチトロールト稱シ 慢性トラホームニ賞用セラル。

62 枸橼酸銅	0.5-1.0	棒ヲ添フ。1日2回點眼 後 輕按摩
グリセリン軟膏 (又ハ米國製白色		(慢性トラホーム パンクス) (フォン
ワセリン)	10.0	ン アルト氏)
以上研和 爲クプロチトロール 硝子		

XXXII. クシロール

Cusylol.

可溶性枸橼酸銅(フォン アルト氏)。綠色ノ粉末。水ニ容易ニ溶解ス。無刺戟性銅製劑トシテ 慢性トラホームニ賞用セラル。チクロール 及 可溶性枸橼酸銅ハ 日本製クシロールナリ。

63 クシロール	0.05-2.0	4 クシロール	0.05
蒸留水	10.0	硼酸	0.3
以上點眼料 1日3回 (慢性トラホーム)		蒸留水	10.0
		以上點眼 1日數回 2-3滴 (フォン	

アルト氏)

65 クシロール
無水ラノリン

ワセリン

以上點眼 1日2回 (慢性トラホーム)
1.0

XXXIII. フィブロリジン

Fibrolysin.

チオジナミン ト サリチール酸ナトリウム トノ複鹽。白色結晶性ノ粉末。水ニ溶解ス。水液液ハ 空氣 及 日光ノ作用ニ由リテ 變化スルヲ以テ アムブレンニ 容レアリ。メルク會社製。1 アンプルレ 中ニハ 15%ノ溶液 2.3ccm 即チ チオジナミン 0.2グラムヲ含ム。隔日1回 1 アンプルレ宛 皮下 靜脈内 又ハ 臀筋内ニ注射ス。(瘻痕組織ノ軟化吸収)ナルベリジンハ 日本製フィブロリジン ナリ。

XXXIV. フルオレスチン 又ハ フルオレスセイン

Fluorescin. Fluorescein.

酸性アニリン色素。黃赤色ノ粉末。水ニ不溶。アルカリニ溶解ス。然レドモ本品ノアルカリ鹽ハ直チニ水ニ溶解ス。兩種共ニ 角膜潰瘍ノ診斷ニ用ヒラル。

66 フルオレスチン	0.4	以上1滴ヲ點眼シ 2-3 秒ノ後 水ヲ
炭酸曹達	0.7	以テ洗滌ス
蒸留水	20.0	

XXXV. フォルマリン

Formalin.

35%ノ フォルムアルデヒド水溶液。無色透明ノ液。刺戟性ノ臭アリ。強キ消毒藥

67 フォルマリン	0.5	68 フォルマリン	10
水	1000.0	水	200.0
以上洗滌料 毎2時1回 (膿漏性結膜炎 急性結膜炎 角膜潰瘍等)		以上器械消毒用	

XXXVI. プロタルゴール

Protargol.

本名 プロテイン銀。淡黃色ノ粉末。微ニ鑛味アリ。水ニ溶解ス。殺菌 及 輕度ノ收斂作用アリ。點眼藥トシテ 初生兒膿漏眼ノ豫防 及 結膜炎ニ用ヒラル。熱ニヨリ 分解シテ 刺戟性トナルヲ以テ 用ニ臨ミ 冷水ヲ以テ 溶解スルヲ可トス。

69	プロタルゴール	0.5-2.0	以上研和 塗布 (眼瞼縁炎)		
	蒸餾水	10.0			
	以上褐色壺=容レ				
70	プロタルゴール	2.0	72	プロタルゴール	1.5
	グリセリン	10.0		亞鉛華	} 各 1.0
	同上			澱粉	
71	プロタルゴール	0.5-2.0		ワセリン	15.0
	ワセリン	10.0	以上研和 塗布 (結膜眼瞼炎) (ダリ エル氏)		

XXXVII. コカイン

Cocain.

通常 鹽酸コカイン ナ用フ。白色 無臭ニシテ 苦味ヲ有スル結晶。水ニ溶解ス。貴重ナル局所麻酔藥。點眼 注射 眼軟膏 等トシテ用ヒラル。麻酔ノ效力ハ 點眼後 2分時ニ始マリ 10分時ニシテ 極度ニ達シ 約10分時間持續ス。如上 末梢知覺神經麻痺作用ノ外交感神經ヲ刺激シ 中等度ノ散瞳 及 局部貧血ヲ起ス。コカインノ水溶液ハ 容易ニ黴ヲ生ジ 且ツ 分解スルヲ以テ 之ニ消毒藥ヲ加ヘ 且ツ 1週間以内ニ 使用スルヲ可トス 熱氣消毒ハ 5分間 1回ニハ堪ヘ得ルモ 數回煮沸スルヲ得ズ。頻回ノ點眼ハ 角膜ヲ侵シ 其上皮ヲ脱落セシム。内服ノ極量ハ 1回 0.05 ナレドモ 點眼 及 注射ニハ 之ヲ超ユルモ差支ナシ。

73	鹽酸コカイン	0.2	77	鹽酸コカイン	0.2-0.4
	五千倍青酸々化汞水	10.0		鹽化アドレナリン(1:1000)	2.0
	以上點眼 (局所麻酔 鎮痛)			1%食鹽水	8.0
74	鹽酸コカイン	0.4		以上5分間 煮沸滅菌シ 點眼 (手術用)	
	蒸餾水(或ハ1%食鹽水)	10.0	78	鹽酸コカイン	0.05
	以上5分時間 煮沸滅菌シ 手術前20分ヨリ 毎5分時 2滴ヅツ點眼 (局所麻酔)			0.9%食鹽水	10.0
75	鹽酸コカイン	0.2		鹽化アドレナリン(1:1000)	10滴
	ワセリン	10.0		以上5分間 煮沸滅菌シ 注射 (手術用) (ブラウン氏)	
	以上研和 點眼 (鎮痛)		79	鹽酸コカイン水(1:100)	1.0
76	鹽酸コカイン	0.1		鹽化アドレナリン(1:1000)	3滴
	蒸餾水(或ハ1%食鹽水)	10.0		同上 (淚囊剔出) (アキセンフェル ド氏)	
	以上5分間 煮沸滅菌シ 注射料トス (手術用)				

XXXVIII. 皓 礬

Vitriolum album.

XXXIX. 鉛 糖

Bleizucker.

醋酸鉛ノ條下ヲ見ヨ。

XL. 鹽化アドレナリン

Adrenali hydrochloricum.

アドレナリンノ條下ヲ見ヨ。

XLI. 鉛 醋

Bleissig.

次醋酸鉛液ノ條下ヲ見ヨ。

XLII. 鹽酸コカイン

Cocainum hydrochloricum.

コカインノ條下ヲ見ヨ。

XLIII. デルマトール

Dermatol.

本名 次没食子酸蒼鉛。無味 無臭 黄色ノ粉末。水ニ不溶。創面ニ用ヒテ 分泌ヲ制限シ 弱キ防腐作用アリ。

80	デルマトール		澱粉	40.0	
	以上毛筆ヲ以テ撒布 (化膿セザル創面)		以上混和 同上 (濕疹)		
81	デルマトール	2.0	82	デルマトール	5.0
	亞鉛華	10.0		ワセリン	15.0
				以上研和 塗布	

XLIV. アイロール

Ainol.

没食子酸 沃度 及 着鉛ノ化合物。無臭 灰綠色ノ粉末。水ニ不溶。濕氣ニヨリ 分解シテ 赤色トナル。効力 デルマトール ニ等シ。

- 83 アイロール
以上毛筆ヲ以テ撒布 (化膿セザル創面)
- 84 アイロール 0.5
ワセリン 10.0
以上研和 點眼 (初生兒膿漏眼 角膜潰瘍 等)

- 85 アイロール
アラビアゴム漿 } 各 10.0
グリセリン }
白陶土 20.0
以上研和 爲アイロール泥膏 貼用
眼瞼手術後ノ創面 (フォン プルン
ス氏)

XLV. アドレナリン

Adrenalin.

アドレナリン ズブラレニン ハ 共ニ副腎ノ製劑ナリ。通常 1000倍ノ 鹽化アドレナリン液 ナ用フ。無色ノ液。空氣ニヨリテ 淡紅色ヲ呈スルモ 効力ニ變化ナシ。點眼 或ハ注射ニヨリテ 血管ヲ收縮セシメ 局部貧血ヲ起スノ作用アルヲ以テ 止血薬トシテ用ヒラル。又 炎症眼ニ用フレバ 點眼薬ノ吸收ヲ促シ 局所麻酔薬ニ加フレバ 其効力ヲ増大セシム。1回ノ注射量 0.0005 即チ 1000倍液 0.5グラム ナ超ユベカラズ。

- 86 鹽化アドレナリン (1:1000) 2.0-10.0
蒸留水 10.0
以上煮沸滅菌シ 點眼 (手術前 點眼前 等)
- 87 鹽化アドレナリン (1:1000) 2.0
鹽酸コカイン 0.2-0.4
0.9%食鹽水 8.0
以上五分間 煮沸滅菌シ 點眼 (手術又ハ 點眼ノ前)
- 88 鹽酸コカイン 0.05
0.9%食鹽水 10.0

- 鹽化アドレナリン (1:1000) 10滴
以上五分間 煮沸滅菌シ 注射料 (手術用)
- 89 鹽化アドレナリン (1:1000) 1.5
鹽酸コカイン 0.1
蒸留水 10.0
同上
- 90 鹽酸コカイン 0.01
鹽化アドレナリン 0.00013
食鹽 0.009
以上爲一錠 使用前 1グラム ノ殺菌
蒸留水ニ溶解 注射 (ブラウン氏)

XLVI. アルギロール

Argyrol.

銀ノ有機性化合物。水ニ溶解シテ 褐色ノ液トナル。硝酸銀 或ハ プロタルゴール ニ比シ 刺戟少ナケレドモ 効力モ亦少ナシ。

- 91 アルギロール 0.1-0.5
蒸留水 10.0
以上點眼 1日數回 (急性結膜炎)
- 92 アルギロール 2.5
蒸留水 10.0
以上點眼 毎時1回 (膿漏性結膜炎)

XLVII. 醋 酸 鉛

Plumbum aceticum.

鉛糖トモ云フ。無色 或ハ 白色ノ結晶。微ニ醋酸ノ臭アリ。水ニ溶解ス。收斂薬ナレドモ 角膜潰瘍ニ沈著シテ 不滅ノ斑點ヲ貽スヲ以テ 角膜ニ損傷アル場合ヲ禁忌ス

- 93 錯酸鉛 0.05-0.1
蒸留水 10.0
以上點眼 1日 1-2回 上眼瞼ヲ翻轉シ 結膜面ニ點眼シ 直チニ 水ヲ以テ 洗滌ス (角膜上皮ノ缺損アル場合ヲ禁忌ス)
- 94 錯酸鉛 0.1-0.5
水 100.0
以上墨法料
- 95 鉛錯 (次錯酸鉛液) 0.5-1.0
- 水 100.0
同上
- 96 錯酸鉛 5.0
明礬 1.0
水 100.0
以上十倍ニ稀釋シ 墨法料トス (急性濕疹) (プロー氏)
- 97 鉛錯 (次錯酸鉛液) 0.5-1.0
ワセリン 10.0
以上塗布

XLVIII. 酸化チアン素

Hydrargyrum oxycyanatum.

青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

XLIX. キセロフォルム

Xeroform.

本名 トリアプローム石炭酸着鉛。無味 無臭 黄色ノ粉末。水ニ不溶。効力 用法 等 デルマトール ニ等シ。

- 98 キセロフォルム
以上毛筆ヲ以テ撒布 (化膿セザル創面)
- 99 キセロフォルム 0.2
ワセリン } 各 5.0
ワノリン }
以上研和 點眼 (角膜潰瘍)

L. 明 礬

Alaun. Alumen.

無色 透映ノ結晶。味 收斂性ナリ。10倍ノ水ニ溶解ス。收斂藥ナレドモ 濃厚ナルトキハ 結膜ヲ腐蝕ス。

100 明礬
以上稜角ヲ去リテ 平滑トナシ 結膜
面ヲ 輕ク 2-3回擦過シ 直チニ 水
ヲ以テ洗滌ス (慢性トヲホー ム)

101 明礬 1.0
水 200.0
以上洗滌料

II. 昇 汞

Hydrargyrum bichloratum.

過クロール汞。白色 透映ノ結晶。16倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒劑。猛毒アリ。金屬ヲ腐蝕ス。消毒藥中 最も多ク用ヒラルモノナリ。(皮膚ニハ千倍 粘膜ニハ五千倍)。水溶液ハ 無臭ナルヲ以テ 錯誤ヲ避クル爲メ 赤色ノ テール色素ヲ加ヘテ 微ニ着色スルヲ法トス。本品ヲ溶解スルニハ 蒸溜水ヲ用フベシ。若シ地水ヲ用フル場合ニハ 約同量ノ 食鹽ヲ加ヘザレバ 水中ノ 炭酸アルカリト化合シテ 不溶性ノ物質トナリ 効力ヲ失フ通常本品ニ 食鹽及 色素ヲ加ヘタル 昇汞食鹽 又ハ 昇汞錠ヲ用フルヲ便トス。近來青酸々化汞 漸次勢力ヲ得テ昇汞ヲ 壓倒セムトス。内服ノ極量 1回0.02 1日0.06。

102 昇 汞 0.2
食 鹽 0.2
水 1000.0

以上五千倍昇汞水 赤色ノ色素ヲ
以テ着色シ 洗滌 又ハ 藥法料トス

103 昇汞錠(1錠ノ含量0.5)
以上1箇ヲ2.5リートルノ水ニ溶解
シ 洗滌料(結膜等)

104 昇 汞 } 各 1.0
食 鹽 }
水 1000.0

以上五千倍昇汞水 赤色ノ色素ヲ以
テ着色シ 消毒用(皮膚)

105 昇 汞 0.03
米國製白色ワセリン 100.0
以上研和 點眼 或ハ 險縁ニ塗布(手
術後ノ創面)

LII. 食 鹽

Sal culinare.

本名 クロールナトリウム。白色 結晶性ノ粉末。鹹味ヲ有シ 水ニ溶解ス。

106 食 鹽 8.5-9.0
蒸溜水 1000.0

以上爲生理的食鹽水 洗滌 又ハ 藥
法料 或ハ 煮沸滅菌シ 洗滌 又ハ 皮
下注入(手術用)

107 食 鹽 8.0
炭酸ナトリウム 0.1

クロールカルチウム 0.1
クロールカリウム 0.075
水 1000.0

以上濾過 藥法料(リッゲル氏)

108 食 0.1-1.0
蒸溜水 10.0

以上煮沸滅菌シ 結膜下注射料

LIII. 次 醋 酸 鉛 液

Liquor plumbi subacetici.

鉛醋ト云フ。醋酸鉛 酸化鉛ノ混和水溶液。醋酸鉛ノ條下ヲ見ヨ。

LIV. ビ オ ク タ ニ ン

Pyoktanin.

砒素ヲ含マザル メチールサイオレット。アニリン色素ニシテ 青色ト黄色トノ二種アリ。水ニ溶解ス。通常 青色ビオクタニンヲ用フ。防腐 及 殺菌ノ効アリ。搔痒ヲ制ス。角膜潰瘍 皮膚ノ創面 濕疹 等ニ用ヒラル。

109 青色ビオクタニン 0.1-0.5
蒸溜水 10.0
以上塗布 後 水ヲ以テ洗滌ス(角膜
潰瘍) 皮膚ハ洗滌ヲ要セズ。

蒸溜水 10.0
以上點眼後 2-3分間ヲ經テ 5%サ
ホニン水ヲ點眼ス 1日1-2回(角膜
潰瘍)(ウイツヘル キーウイツツ氏)

110 青色ビオクタニン 0.02-0.05

LV. 青 酸 汞

Hydrargyrum cyanatum.

チアン汞トモ云フ。無色 透明ナル 稜柱狀ノ結晶。13分ノ水ニ溶解ス。猛毒アリ。其効力 及 用法青酸々化汞ト同様ナリ。青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

LVI. 青 酸 々 化 汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

酸化チアン汞 又 オキシチアン汞トモ云フ。白色 結晶性ノ粉末。17倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒藥ニシテ 効力 昇汞ト伯仲ス。而シテ 其昇汞ニ優レル點ハ 蛋白質ヲ凝固セシメザルヲ以テ 組織ヲ刺戟スルコト少ナキト 金屬ヲ腐蝕スルコト少ナキトナリ。故ニ 其應用極メテ廣ク 種々ノ方面ニ於テ 昇汞ヲ壓倒スルニ至レリ。青酸汞ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得。

111 青酸々化汞 0.2-0.5
水(煮沸滅菌) 1000.0
以上洗滌料(結膜囊)(手術用)又
藥法料

水 1000.0
以上洗滌料(涙囊炎 結膜炎 角膜潰
瘍等) 又ハ 皮膚消毒料

112 青酸々化汞 0.5-2.0

113 青酸々化汞 1.0
水 100.0

以上器械消毒料 (15 分間以上浸漬ス)	114 青酸々化汞液(1:1000) 10.0 以上煮沸滅菌シ 爲結膜下注射料
----------------------	--

LVII. 硝酸銀

Argentum nitricum.

光輝アル無色板状ノ結晶ニシテ水ニ溶解ス。稀釋液ハ結膜ヲ收斂シ濃厚液ハ腐蝕ス。腐蝕作用ハタゞ表面的ニシテ結膜ニ點ズレバ上層ノ蛋白質ト化合シ白色ノ薄キ膜ヲ生ジ若干時ノ後脱落ス。コノ際表層ノ細菌等ハ共ニ除去セラレ患者輕快ナ覺ユ。適應症ハ結膜ノ加答兒性分泌 角膜ノ加答兒性潰瘍等ナリ。刺戟強キヲ以テ點眼後冷罨法ヲ行フヲヨシトス。結膜ニ沈着シテ所謂銀病ヲ起スノ懼アルヲ以テ永續シテ用ヒザルヲ可トス。且點眼後直チニ(強ク作用セシメムトスルトキハ若干秒ノ後)1%食鹽水ヲ以テ洗滌スベシ。被服 皮膚 等ニ附着スレバ乾燥後黒斑ヲ胎スヲ以テ藥液ノ他ニ附着セザルコトニ注意スベシ。光線ニヨリテ分解スルヲ以テ著色壘ニ容レ又蛋白質 食鹽 等ト化合スルヲ以テ汚物ノ混入ヲ防ギ屢々新鮮ナルモノト交換スルヲ要ス。皮膚 又ハ被服ニ附着シタル黒斑ヲ去ルニハクロール銅2.0ヲ水10.0ニ溶解シタル液ニテ濕ホシ稍白クナリタル後次亞硫酸曹達液(1:10)ニ浸シ全ク白色ニ消失シタル後温湯ヲ以テ能ク洗フベシ。或ハ又沃度液(沃度加里15.0ヲ水5.0ニ溶解シ之ニ沃度50.0ヲ加ヘ全量ヲ500.0トナシテ貯フ)若クハ日本藥局方ヨード丁幾ニ酒精ヲ加ヘ2倍ニ稀釋シタルモノヲ滴下シ褐色ニ變セシメ約5分時間放置シタル後次亞硫酸曹達液(1:10)ノ温液ニテ洗ヒ落シ更ニ水ニテ洗フベシ(森川氏)。又ハ昇汞クロールアムモニウム各10.0 蒸留水100.0ノ液ヲ塗布スルモ可ナリ。

115 硝酸銀 0.2 蒸留水 10.0 以上硝子棒ヲ以テ 初生兒ニ點眼 (初生兒膿漏眼ノ豫防)(クレーデ氏法)	以上眼瞼ヲ翻轉シ 結膜面ニ塗布 又ハ點眼後1%食鹽水ヲ以テ洗滌ス 1日1回(急性結膜炎 膿漏眼 急性トラホーム等)
116 硝酸銀 0.1—0.2 蒸留水 10.0	117 硝酸銀 0.03—0.05 蒸留水 10.0 同上(炎症ノ稍々輕キモノ)

LVIII. 石炭酸

Acidum carboricum.

無色線状ノ結晶ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ15倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒藥ナルモ刺戟強キヲ以テ眼科ニ於テハ主トシテ器械ノ消毒ニ用ヒラル。又鎮痛ノ爲結膜下注射トシテ用ヒラルハコトアリ。

118 石炭酸 5.0 蒸留水 95.0 以上器械消毒料	119 注射用石炭酸 0.05 蒸留水(煮沸滅菌) 10.0 以上結膜下注射料
------------------------------------	---

LIX. スピカイン

Supicain.

ノウオカイント同一物ナリ。

大正五年九月廿九日初版印刷
大正五年十月二日初版發行
大正十一年一月八日再版印刷
大正十一年一月十一日再版發行

(正價金五圓)

著者 石原忍

發行者 山口徳次郎

東京市本郷區春木町二丁目二十二番地


印刷者 吉原良三

東京市牛込區早稲田鶴巻町百四十一番地

印刷所 康文社印刷所

右 同 所

東京市本郷區春木町二丁目角

發行元 半田屋出版部 

(電話小石川八十七番)

(振替東京三四六四番)

456

正醫軍等一軍陸 官教校學醫軍軍陸

著撰生先忍 原石 士博學醫

新訂三版

石原 學校用色盲檢查表

全國諸學校ノ身測檢査用トシテ正確無比ノ大好
評ヲ博セシ本書ハ更ニ嚴密ナル校訂ヲ施シ今回

訂正第三版

チ發
行ス

精巧著色石版十表
說明附美裝全壹册
正價金參圓
郵稅金拾貳錢

新訂四版

石原 日本色盲檢查表

本書ハ學校用色盲檢査表ノ姉妹篇ニシテ「アラビヤ」數字ノ代リニ片假名ヲ用ヒタルモノナリ。單獨ニ使用スルコ
トヲ得レドモ、學校用ト併用スレバ諸種多様ノ檢査ヲ行ヒ得テ一層利便多シ。片假名表ヲ望マル、方、並ニ既ニ學
校用ヲ所持セラル、方モ、是非一本ヲ備ヘラル、ノ要アリ。御註文ハ至急ヲ要ス。

緻密精巧着色石版
拾表附說明
頗美裝本綴全一册
正價金參圓
郵稅料拾貳錢

新訂三版

石原 萬國色盲檢查表

本書ハ現ニ歐米諸國ニ於テ非常ノ賞讃ヲ博シツ、アルモノニシテ、學校用色盲檢査表ノ一層完全ナルモノナリ。
即チ「アラビヤ」數字ノ表十三葉ニ文盲者檢査用トシテ迂曲難チ迪ラシムル表三表ヲ附加シ、之ヲ堅牢ナル折本ニ
挿入シタル者ニシテ、一般色盲檢査用、特ニ文盲者ノ檢査、詳嶋ノ疑アル場合ノ檢査ニ適ス。
●▲大正十一年二月第三版發行▼●●

體裁優美折本全壹部
緻密精巧着色石版
拾表附說明
正價金參圓
郵稅料拾貳錢

屋田半 (番七十八川石小話電)町木春區郡本市京東 元兌發
(番四六四三京東發)地番二十二目丁二

27.13

55
103

終